

**ホンジュラス国
西部地域観光分野
基礎情報収集調査報告書**

平成 24 年 7 月
(2012 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)
ホンジュラス事務所

ホン事
JR
12-003

目 次

目 次
写 真
地 図
略語集

第 1 章	基礎情報収集調査の概要	1
1.1	調査実施の背景と目的	1
1.2	調査団の構成	2
1.3	現地調査の日程	2
1.4	調査概要	3
第 2 章	「ホ」国における観光の現況	4
2.1	「ホ」国観光の現状	4
2.1.1	上位計画の概要	4
2.1.2	主な観光資源	5
2.1.3	観光客数と観光の現況	6
2.1.4	「ホ」国観光の課題	9
2.2	西部地域の観光の概況	11
2.2.1	観光客数と観光の現況	11
2.2.2	主な観光資源	13
2.2.3	観光開発の取組	14
2.2.4	西部地域における観光開発の課題	15
2.3	観光関連組織の現状	15
2.4	他ドナーなどによる支援状況	17
第 3 章	西部地域において今後求められる観光開発の方向	19
第 4 章	プロジェクトの方向性	23
4.1	JICA による協力可能性の検討	23
4.2	協力対象候補案件の素案	26
付 録		30
付録 A	主要面談者リスト	30
付録 B	収集資料リスト	47

写 真



コパン遺跡



コパン遺跡博物館及びビジターセンター



コパン・ルイナス市街



観光・工芸技術開発センター



ラ・ピンターダ村

とうもろこしの皮による人形の共同作業場



アシエンダ・サン・ルカ



コパン・ルイナスでのワークショップの様子



サンタ・ロサ・デ・コパン市街



グラスias市街



エル・プエンテ遺跡及びビジターセンター（博物館）



リオ・アマリージョ遺跡博物館

地 図



<調査対象地：西部地域>

上記地図の内、コパン・ルイナスを中心としてコパン、オコテペケ、レンピーラの3県

略 語 集

略語	西語・英語	日本語
ADELSAR	Agencia de Desarrollo Estratégico Local de Santa Rosa de Copán	サンタ・ロサ・デ・コパン地域戦略開発局
AECID	Agencia Española de Cooperación Internacional para el Desarrollo	スペイン国際開発協力庁
AMHON	Asociación de Municipios de Honduras	ホンジュラス全国市連合会
CANATURH	Cámara Nacional de Turismo de Honduras	ホンジュラス全国観光協会
CONIMCHH	Consejo Nacional Indígena Maya Ch'ortí de Honduras	ホンジュラス全国マヤ先住民族評議会
CITEAT	Centro de Innovación y Tecnología en Artesanía y Turismo	観光・工芸技術開発センター
DANIDA	Danish Agency for Development Assistance	デンマーク国際開発庁
GIZ	Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
GTZ	Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit	ドイツ技術協力公社
HOPEH	Asociación de Pequeños Hoteles de Honduras	ホンジュラス中小ホテル協会
IDB	Inter-American Development Bank	米州開発銀行
IHAH	Instituto Hondureño de Antropología e Historia	国家歴史人類学研究所
IHT	Instituto Hondureño de Turismo	ホンジュラス観光研究所
JICA	Japan International Cooperation Agency	(独) 国際協力機構
INFOP	Instituto Nacional de Formación Profesional	国家職業訓練庁
MANCORSARIC	Mancomunidad de municipios de Copán Ruinas, Santa Rita, Cabañas y San Jerónimo	コパン・レイナス周辺市連合会
NGO	Non-Government Organization	非政府組織
OCDIH	Organismo Cristiano de Desarrollo Integral de Honduras	ホンジュラス・総合開発に関わるキリスト教協会
OIDH	Organización Integral para el Desarrollo de Honduras	ホンジュラス総合開発協会
SDC	Swiss Agency for International Development	スイス開発協力庁

SETUR	Secretaría de Turismo	観光省
SEPLAN	Secretaría Técnica de Planificación y Cooperación	国家計画・国際協力省
SITCA	Externa	中米観光連合機関
SNV	Secretaría de Integración Turística Centroamericana	オランダ国際協力協会
USAID	Netherlands Development Organization	アメリカ合衆国国際開発庁
UNICEF	United States Agency for International Development	国際連合児童基金
	United Nations International Children's Emergency	
UNODC	Fund	国連薬物犯罪事務所
	United Nations Office on Drugs and Crime	

第1章 基礎情報収集調査の概要

1.1 調査実施の背景と目的

ホンジュラス国(以下「ホ」国)はカリブ海側のビーチリゾート、西部地域のマヤ文明の遺跡観光を中心として、豊富な観光資源に恵まれている。その結果、観光は「ホ」国にとって重要な産業の一つであるとともに今後の開発資源でもある。2009年のデータによれば、観光分野における外貨収入については61,600万ドルで、「ホ」国全体の12.5%を占めている。これは海外送金、マキーラ(保税輸出加工区)による外貨収入に次いで3番目である。また、観光業のGDPに占める割合もここ数年6.0%を維持している。海外観光客¹の数も近隣の中米及びアメリカ合衆国からの観光客を中心として年々増加傾向であり、2008年は約92万人となっている。ただし、2009年においては、同年6月のクーデター発生と同年のインフルエンザの流行の影響を受けて、約88万人と若干の観光客減が見られる。

「ホ」国では政権交代に影響されない、より長期的な視点に立った国家政策が必要であるとの認識の下、2010年1月に「国家ビジョン2010-2038 (以下、「国家ビジョン」)」と「国家計画2010-2022 (以下「国家計画」)」が国会承認され、これらが「ホ」国の開発計画の中心となっている。観光開発については「国家ビジョン」の中の「持続的且つ環境保全に配慮した生産性向上、機会の創出、雇用の促進」に位置付けられるとともに、「国家計画」には「「ホ」国への訪問者数の増加」という具体的な目標となる指標も提示されている。これらに先立って、2005年には「持続的な観光開発戦略」を策定しており、「ホ」国の有する自然と文化の保全とともに持続的な観光開発を推進することを謳っている。

日本政府・JICAは対「ホ」国援助重点分野の一つに「持続的地域開発」を掲げ、「地域社会・経済開発プログラム」に基づく協力を実施している。地域資源を活用した社会経済開発を支援するという観点から、地域開発における観光開発への取組の妥当性は高く、効果的な案件の形成が必要となっている。

「ホ」国西部地域にあるマヤ古典期の大都市の遺跡であるコパン・ルイナスは、1980年にユネスコの世界文化遺産に登録された「ホ」国でも重要な観光都市である。2009年はクーデターやインフルエンザの流行等の影響で微減しているものの、年間約15万人の観光客が国内外から訪れており、その数は年々増加傾向にある。同遺跡とその周辺地域に関しては、我が国は技術協力「ラ・エントラダ考古学プロジェクト(1984-1994)」、文化無償資金協力「ホンジュラス歴史人類学研究所に対する遺跡保存機材(1983)」、「マヤ文明を中心とした考古学活動機材整備計画(2000)」、一般無償資金協力「コパン川下流域開発計画(1989)」、ノンプロ無償見返り資金「コパン考古学プロジェクト実施のためのホンジュラス国立人類学歴史研究所への支援(2006-2008)」を実施し、さらにボランティア派遣事業(考古学、観光等)による協力を実施してきている。これまでの「ホ」国に対する観光分野への協力の多くは、マヤ遺跡の調査、保存を中心として行ってきた。今後は、これら既存の協力の成果を活用しつつ、遺跡を有する地域の住民や社会の開発への裨益という観点からの協力を推進することが必要である。

以上の背景を踏まえ、本調査は、「ホ」国開発計画において重要な観光開発について、特に

¹ 1泊以上の宿泊を伴う観光客。日帰りの観光客は含まれない。以下同様。

マヤ文明の遺跡であるコパン・ルイナスを有する西部地域を中心に基礎情報収集、分析を行い、今後のJICAによる協力の指針となる資料の作成を目的として実施することとなった。

1.2 調査団の構成

総括	JICA ホンジュラス事務所長	山田 章彦
観光開発	(株)コーエイ総合研究所	川崎 健

1.3 現地調査の日程

番号	日付	調査内容・訪問先	宿泊地
1	8日(日)	移動	
2	9日(月)	JICA ホンジュラス事務所	テグシガルパ
3	10日(火)	JICA ホンジュラス事務所、観光省、国家計画・国際協力省、旅行代理店 (Destinos de Éxito)	テグシガルパ
4	11日(水)	ホンジュラス全国市連合会、国家歴史人類学研究所、ホンジュラス全国中小ホテル協会、旅行代理店 (Alhambula Travel)、ホンジュラス全国観光協会	テグシガルパ
5	12日(木)	旅行代理店(Land Tour)、JICA ホンジュラス事務所	テグシガルパ
6	13日(金)	資料整理	テグシガルパ
7	14日(土)	資料整理	テグシガルパ
8	15日(日)	コパン・ルイナスへ移動	コパン・ルイナス
9	16日(月)	国家歴史人類学研究所コパン遺跡事務所、コパン・ルイナス市観光局、コパン遺跡、コパン・ルイナス市街地	コパン・ルイナス
10	17日(火)	旅行代理店 (Mc Tour)、コパン・ルイナス観光協会 (商工会議所)、マッカウ・バードパーク、サンタ・イザベル (コーヒー・ツアー)	コパン・ルイナス
11	18日(水)	市役所にてワークショップ調整、旅行代理店 (Base Camp)、アシエンダ・サン・ルカ(高級宿泊施設)、子供博物館、トウモロコシ人形作りの村、チーズ工房	コパン・ルイナス
12	19日(木)	サンタ・ロサ・デ・コパンに移動 サンタ・ロサ・デ・コパン市街地、サンタ・ロサ・デ・コパン地域戦略開発局、スペイン国際開発協力庁	サンタ・ロサ・デ・コパン
13	20日(金)	サンタ・ロサ・デ・コパン観光協議会、グラシアス周辺市連合会、グラシアス市街地	サンタ・ロサ・デ・コパン
14	21日(土)	サンタ・ロサ・デ・コパン よりコパン・ルイナスに移動 途中エル・プエンテ遺跡	コパン・ルイナス
15	22日(日)	資料整理	コパン・ルイナス
16	23日(月)	観光・工芸技術開発センター、エル・シスネ農園 (アグロツーリズム施設)、ジャガースパ (温泉施設)	コパン・ルイナス
17	24日(火)	ワークショップ準備	コパン・ルイナス
18	25日(水)	ワークショップ実施	コパン・ルイナス
19	26日(木)	バス会社 (Hedman Alas コパン・ルイナス営業所)、コパン協会、リオ・アマリージョ遺跡	コパン・ルイナス
20	27日(金)	中間報告準備	コパン・ルイナス
21	28日(土)	中間報告準備	コパン・ルイナス
22	29日(日)	テグシガルパへ移動	

23	30日(月)	中間報告準備	テグシガルパ
24	31日(火)	JICA ホンジュラス事務所、資料整理	テグシガルパ
25	1日(水)	ホンジュラス全国市連合会、国家職業訓練庁、観光省、ホンジュラス全国観光協会	テグシガルパ
26	2日(木)	中間報告	テグシガルパ
27	3日(金)	コパン・ルイナスへ移動	コパン・ルイナス
28	4日(土)	資料整理	コパン・ルイナス
29	5日(日)	資料整理	コパン・ルイナス
30	6日(月)	エル・プエンテ遺跡、ヌエバ・アルカディア市、観光・工芸技術開発センター	コパン・ルイナス
31	7日(火)	コパン・ルイナス市（都市計画担当）、ホンジュラス全国マヤ先住民民族評議会コパン・ルイナス支部、コパン・ルイナス周辺市連合会	コパン・ルイナス
32	8日(水)	コパン・ルイナス市（プロジェクト担当）、ホンジュラス総合開発に関わるキリスト教協会	コパン・ルイナス
33	9日(木)	コパン遺跡	コパン・ルイナス
34	10日(金)	資料整理	コパン・ルイナス
35	11日(土)	テグシガルパへ移動	テグシガルパ
36	12日(日)	資料整理	テグシガルパ
37	13日(月)	JICA ホンジュラス事務所	テグシガルパ
38	14日(火)	JICA ホンジュラス事務所（午後発）	
39	15日(水)	（機中）	
40	16日(木)	東京着	

1.4 調査概要

上記の日程に基づき、面談調査、現地視察、コパン・ルイナスでの関係者間のワークショップ開催を行い、調査結果の整理等を経て、協力対象候補案件の素案として、1)コパン・ルイナス観光街区の整備計画策定プロジェクト、2)マヤ遺跡における展示・解説機能強化プロジェクト、3)コパン・ルイナス観光振興プロジェクト、4)マヤ遺跡観光ルート（回廊）形成・利用促進プロジェクト、5)道の駅開発プロジェクトをまとめた。

第2章 「ホ」国における観光の現況

2.1 「ホ」国観光の現状

「ホ」国は、中央アメリカ中部に位置し、西にグアテマラ、南西にエルサルバドル、南東にニカラグアと国境を接している。

気候的には熱帯に属し、概ね内陸部では5月～11月が雨季、カリブ海岸部では9月～1月が雨季となる。国土の80%近くを占める山岳地帯は標高1,000mから1,500m程で、テグシガルパなどの都市が多く分布する。これら都市は比較的過ごしやすい気候である。一方、カリブ海岸低地は高温多湿であり、南西部カリブ海岸のラ・モスキーティア地域には手つかずの熱帯雨林が広がりプラタノ川流域はユネスコ世界自然遺産（1982年）に登録されている。

「ホ」国では、主に北米、ヨーロッパ諸国からの来訪客の多い、a) テラ、ラ・セイバなどのカリブ海沿岸と沖合のバイア諸島（イスラス・デ・ラ・バイヤ）のビーチリゾート、b) 西部地域におけるマヤ遺跡、なかでもユネスコ世界文化遺産（1980年）に登録されているコパン遺跡が代表的な観光地として利用が顕在化している。なお、「ホ」国の基礎的な指標を示すと以下の様になる。

◆ 「ホ」国の基礎的な指標(2009年) ◆

人口（百万人）	7.5
面積(1,000平方km)	112.1
名目GDP(USD billions)	14.3
一人当たりGNI(USD)	1,914
実質GDP成長率	-1.9

出典：外務省ホームページ、2011 World Economic Forum

2.1.1 上位計画の概要

観光セクターでの国家レベルでの観光開発の方向性を示す上位計画としては、2005年に観光省（以下SETUR）及びホンジュラス観光研究所（以下IHT）により策定された「持続的な観光開発戦略」がある。その戦略によれば、以下のような観光開発の方向性が示されている。

【優先（短期）開発ゾーン】

- ①バイア諸島：自然環境に配慮した国際的なビーチリゾートを形成する。
- ②マヤ遺跡エリア：遺跡の保護とともに、コパン遺跡を起点としてカリブ海岸・バイア諸島とを結ぶ文化的な観光ルートを形成し、「ホ」国観光の魅力の向上、滞在の延長に資する。
- ③カリブ海沿岸：ビーチリゾートとしての発展とともに、沿岸部の豊かな自然を活かしたエコツーリズム開発を推進し、国際観光エリアを形成する。

【中期開発ゾーン】

- ①ヨホア湖エリア：国内最大の湖である同湖及び周辺のサンタ・バルバラ自然公園などで、エコツーリズム、レクリエーション、スポーツなどが楽しめる観光エリアを形成する。
- ②コマヤグアエリア：大聖堂、旧大統領宮殿などの歴史的な建造物や街並み、聖週間の様々な宗教的な祭事などで知られる旧都の観光エリア形成を進める。

【長期開発ゾーン】

- ①ラ・モスキーティア（プエルト・レンピーラ周辺）：「ホ」国南東部に位置しニカラグア北東部に接する地域であり、いくつかの少数民族、サバンナの景観と環境を持つ。この資源を活かしたエコツーリズムを開発する。
- ②ラ・モスキーティア（リオ・プラタノ生物圏保護区周辺）：ほぼ原始の姿を留める熱帯雨林の保護とエコツーリズムを進める。

2.1.2 主な観光資源

「ホ」国内の主な観光地・観光資源は、カリブ海の諸島・ビーチ、熱帯雨林などの手つかずの自然、さらにはマヤの遺跡の3つに大きく分類される。カリブ海の観光資源は、透明度の高い海、多様性に富むサンゴ礁、のんびりとした滞在を楽しめる適度な開発の度合いなどが魅力となっている。手つかずの自然では、ラ・モスキーティア地域が代表格である。この熱帯雨林は中米では最もまとまった面積を有するといわれ、将来的には益々その貴重性が高まると共に、その資源を活かした適切な観光利用の促進されることが期待されている。また、マヤ遺跡は「ホ」国がその文化圏の南限といわれ、末端に位置する遺跡として貴重である。特に、コパン遺跡は規模・内容ともに国を代表する資源である。その他、マヤやレンカなどの先住民族の文化や独自の工芸品なども観光資源の一部を形成している。以上の概要を観光地、観光資源としてまとめると下表のようになる。

表 2.1 「ホ」国の主要観光地

観光地	概況
コパン遺跡	● 国を代表するマヤ遺跡であり、1980年にはユネスコ世界文化遺産に登録された。また、周辺部には、より小規模なマヤ遺跡がいくつか分布する他、国内有数のコーヒー産地でもある。
コマヤグア	● 国を代表するコロニアル・タウンである。聖週間やイースターに行われる宗教行事も有名である。
ヨホア湖	● 国内最大の湖。その自然景観とともに、バードウォッチングの好適地としても知られる。周辺にはサンタ・バルバラ自然公園などもある。
ラ・モスキーティア	● 原始の姿を留める熱帯雨林であり、この森林の大部分が自然公園・保護区となっている。1982年にユネスコ世界自然遺産として登録された。
コチノス島	● 白い砂浜、ヤシの木、澄み切った海、サンゴ礁で知られる小島。周辺は海洋保護区になっており、豊かな海洋生態系を楽しめるダイビング地としても著名である。
ロアタン島	● ダイビング地としても知られるビーチリゾート。多様な宿泊施設、食事施設などが整備されており、カリブ海の島嶼におけるリゾートの中心的な存在である。
ウティラ島	● 上記の2島と同様のビーチリゾート。バックパッカーなど、時間消費型の観光客が多いと言われる。ダイビングのライセンス取得が低価で出来ることでも知られる。
テラ	● 国内の主要なカリブ海沿岸リゾート。各種の宿泊、食事施設等が充実している。

出展：調査団作成

表 2.2 「ホ」国の主要観光資源

観光資源	概要
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然公園・保護区：ラ・モスキーティアやピコ・ボニートなどの低地の熱帯雨林。国内最高峰を有する内陸部のセラケ山岳国立公園など、多様な生態系、景観を楽しめる。 ● 動物・植物：山岳、湿地、湖沼などの様々な生態系が存在し、多様な自然が楽しめる。オウム類などの熱帯性の鳥を身近に見られるバードウォッチングは、外国人には新鮮と言われる。
人文資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 遺跡・史跡：マヤ遺跡は国を代表する観光資源であり、主に国の西部に分布する。また、コロニアル様式の歴史的な街並み・建造物もコマヤグア、サンタ・ロサ・デ・コパンなどで見ることが出来る。 ● ヘリテージ：マヤ、レンカなど、独特の生活風習を持つ先住民民族がおり、観光的な魅力となっている。 ● 博物館：テグシガルパを中心として歴史博物館、民族博物館などが整備されている。 ● 年中行事：コマヤグアでの聖週間やイースターの宗教行事、ラ・セイバでのカーニバルなど各地にイベントがある。
リゾート地	<ul style="list-style-type: none"> ● ビーチ：カリブ海の島とテラなどの沿岸部は、サンゴ礁の白い砂と澄み切った海、またダイビングの好適地としても知られる。
野外スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ● 先のダイビングの他、パトゥーカ川でのラフティング、各地の牧場での乗馬体験など、様々な活動が実施されている。
地場産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶器、木彫、テキスタイル、宝飾品などの各種工芸がある。また、コーヒー・ツアーなどアグロツーリズムを楽しむことも可能である。

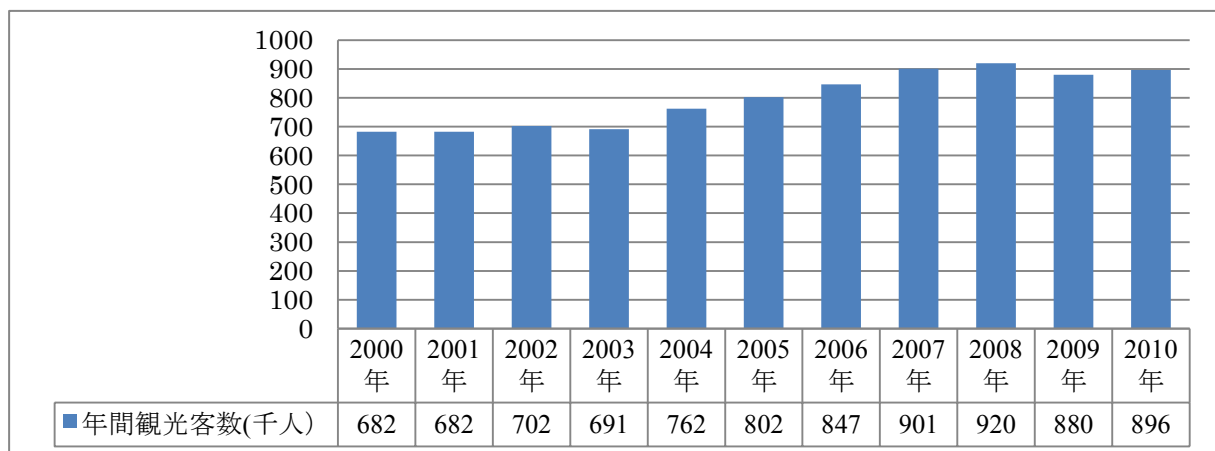
出展：調査団作成

2.1.3 観光客数と観光の現況

(1)観光客数の現況

「ホ」国への年間の観光客は、2000年（約68万人）より2008年（92万人）までは、ほぼ増加で推移したが、2009年には内政の混乱や世界的な経済変動の影響などもあり微減に転じた。ただし、2010年にはわずかながら増加となり、ほぼ90万人の観光客数を維持している。

図 2.1 「ホ」国における年間観光客数の推移(2000年～2010年)



出典：Boletín de Estadísticas Turísticas 2005-2009 (SETUR)

一方、先の図 2.1 とはデータの出所が異なるため、微妙に観光客数が異なるものの、中米全体の比較を見ると、「ホ」国は常に下位グループに属し、エコツーリズムの先進地として知られるコスタリカの半分以下の観光客数となっている。隣接国との比較では、グアテマラやエルサルバドルとは数的には劣るものの、この両国が減少の傾向にあるのに反して、「ホ」国は横ばい、もしくは微増の傾向にあることが特徴的である。

表 2.3 中米諸国の観光客数の推移(2006年～2010年)

単位：千人

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
ホンジュラス	739	831	899	870	896
ベリーズ	247	252	245	232	238
コスタリカ	1,725	1,980	2,089	1,923	2,100
エルサルバドル	1,279	1,339	1,385	1,091	1,150
グアテマラ	1,455	1,449	1,527	1,392	1,219
ニカラグア	749	800	856	932	1,011
パナマ	843	1,103	1,242	1,200	1,317

出典：Boletín de Estadísticas de Centroamérica 2010（中米観光連合機関、以下 SITCA）

中米諸国の観光客を発地別にみると、観光先進国のコスタリカでは、全観光客の約5割が北米からの来訪である。この傾向に対して、「ホ」国では、北米からの来訪は4割弱とやや少なく、中米からの来訪が多い傾向にある。

表 2.4 発地別観光客数（2010年）

単位：千人

	ホンジュラス	ベリーズ	コスタリカ	エルサルバドル	グアテマラ	ニカラグア	パナマ
中米	415.2	30.2	642.5	739.8	933.8	650.7	114.1
北米	352.5	167.7	1,005.3	356.6	645.5	247.9	349.1
南米	19.6	2.1	119.2	23.7	57.7	21.0	512.4
カリブ	5.4	2.5	14.6	2.6	7.7	4.5	30.4
ヨーロッパ	90.6	28.5	277.4	19.9	179.8	71.9	120.8
アジア	10.8	3.0	30.4	4.9	26.4	10.9	31.5
その他	1.5	4.1	10.4	2.1	24.9	4.4	4.4

出典：Boletín de Estadísticas de Centroamérica 2010 (SITCA)

国別の訪問目的では、コスタリカやベリーズでは観光の割合が約8割と極めて高い傾向がある。「ホ」国については、観光目的の訪問は約3割5分と、その割合は中米諸国のなかでも下位に位置しており、人口や経済の拡大に伴い増加する訪問者数に対し、観光開発の遅れや悪化する治安により、観光客数が低調に推移している結果と推測される。

表2.5 国別の訪問目的(2010年) (%)

	ホンジュラス	ベリーズ	コスタリカ	エルサルバドル	グアテマラ	ニカラグア	パナマ
ビジネス	30.6	3.9	11.3	14.4	24.2	11.3	32.6
観光	34.8	77.1	79.2	44.7	32.0	54.9	53.9
家族・友人訪問	28.1	18.1	7.6	35.9	30.3	25.0	4.2
会議	1.0	0.0	0.0	0.0	4.1	1.1	5.9
その他	5.5	0.9	1.9	5.0	9.4	7.7	3.4

出典：Boletín de Estadísticas de Centroamérica 2010 (SITCA) 註「ホ」国データは2009年のもの

表2.6 「ホ」国観光客の発地別訪問目的(2009年) (%)

	北米諸国	中米諸国	ヨーロッパ諸国	他の世界諸国	計
ビジネス	16.7	48.8	14.5	43.8	30.6
観光	39.1	19.3	72.5	38.2	34.8
家族・友人訪問	36.8	25.9	9.8	9.7	28.1
会議	0.3	1.6	0.4	4.2	1.0
その他	7.1	4.4	2.8	4.1	5.5

出典：Boletín de Estadísticas Turísticas 2005-2009 (SETUR)

(2) 「ホ」国の観光的な国際競争力

2011年にまとめられた世界各国の観光に関する競争力の報告書をみると、「ホ」国は139ヶ国中の88位(2011年)であり、真ん中からやや下のグループに属している。また、中米諸国との比較では6ヶ国中の4位である。

表2.6 「ホ」国の観光的な国際競争力順位(周辺国との比較)

	ホンジュラス	コスタリカ	パナマ	グアテマラ	エルサルバドル	ニカラグア
2011年(139ヶ国中)	88位	44	56	86	96	100

出典：The Travel & Tourism Competitiveness Report 2011 (World Economic Forum)

「ホ」国の競争力評価の細目をみると、「観光政策」、「観光への取組姿勢」、「自然資源」といった項目では比較的良い評価を、「価格」においては139ヶ国中32位と高評価を得ている。一方で、「持続的な観光開発戦略(SETUR, 2005年)」において改善の重要性が謳われている、各種「インフラ」及び「観光人材育成」の評価は90位前後と低く、「安全・安心」、「健康・衛生」においては、100位以下と厳しい評価を得ている。

表 2.7 「ホ」国の観光的な国際競争力順位（細目）

項目	順位（139ヶ国中）
観光政策・関連法整備	50位
自然環境の持続性	66
安全・安心	106
健康・衛生	101
観光の政策的な優先度	51
航空インフラストラクチャ	69
道路インフラストラクチャ	85
観光施設インフラストラクチャ	80
国際通信インフラストラクチャ	92
価格競争力	32
観光人材育成	94
教育・訓練の現況	94
有資格者の得やすさ	85
観光の受入度合い（観光への親和度）	64
自然資源	50
歴史・文化資源	94

出典：The Travel & Tourism Competitiveness Report 2011（World Economic Forum）

2.1.4 「ホ」国観光の課題

「ホ」国の観光的な課題については、以下に示したように SETUR および IHT によりまとめられている。この内容を整理すると、ア) 組織連携・強化、イ) 安心・安全の改善、ウ) 人材育成、エ) 観光商品開発・マーケティングに要約される。

【SETUR 及び IHT による「ホ」国観光の課題】

- ① 国が行う観光振興の戦略的な取組やプロモーションへの民間企業及び地方行政組織の積極的な参加の促進
- ② 観光セクター強化のための組織間連携と法体系の整備
- ③ 観光における戦略的な事業実施のための計画、進捗管理、モニタリングの一連のメカニズムの構築
- ④ 観光セクターにおいて首尾一貫したポリシー及びプログラムを展開するための調整組織の強化
- ⑤ 観光警察官の増強、情報提供、施設設備を通じた安心・安全の観光地の構築
- ⑥ 観光セクターにおける人材育成と育成プログラムの改善
- ⑦ 観光開発・振興による地方の付加価値の創出
- ⑧ 観光セクターへの投資促進のための観光開発財源の強化
- ⑨ エコ、アドベンチャーなど地方・農村部の資源・魅力を活かした観光開発の促進
- ⑩ 多くの関連セクターや関係者を巻き込んだ戦略的なマーケティング計画の策定

なお、「ホ」国の観光の安全・安心については、先の国際競争力でも極めて低い評価が与えられている。世界一の殺人発生率の記録を持つ「ホ」国において（UNODC, 2011）、テグシガルパやサン・ペドロ・スーラなどの大都市、さらには麻薬密輸のルートとして利用されることの多いラ・モスキーティア地域の海岸地帯やグアテマラ国境沿いの山岳地帯の危険性が高いと言われている。調査対象地である西部における観光地域（マヤ遺跡）は危険地帯には含まれないが、近傍の国境地帯は治安上危険とされている。

2.2 西部地域の観光の概況

「ホ」国西部地域は、コパン遺跡に代表されるように、「ホ」国内で唯一マヤ遺跡が分布する。また、サンタ・ロサ・デ・コパンやグラシアスのようなコロニアル・タウン、さらにはセラケ山岳国立公園などの自然やコーヒー農園などの多様な振興資源を持つ地域である。

2.2.1 観光客数と観光の現況

(1) コパン・ルイナスの年間観光客数

西部地域の観光客数については、統計資料の少ない実情がある。これは県レベル（コパン、オコテペケ、レンピーラ）、市レベル（サンタ・ロサ・デ・コパン、グラシアスなど）とも共通で、どの程度の観光客が来訪をしているかを知ることは困難である。

このような中で、コパン遺跡については入場料徴収の関係から正確な数字がある。西部地域の観光拠点のひとつであり、本調査の重点地区であるコパン・ルイナスについては、遺跡を訪れずに街のみを訪れる観光客は極めて少ないと考えられ、また、コパン・ルイナスでのホテル稼働率の統計データと照らし合わせても、2010年には概ね10万人程の年間観光客数を受け入れていたことが推測される。

また、時系列的な観光客の推移では、2003年～2008年までは概ね15万人程の観光客を受け入れているが、2009年のクーデター及びインフルエンザ発生により、2009年及び2010年は10万人程に減少している。

発地別では、国内客が約半数を占めるが、次いでヨーロッパ、北米観光客が多くなっている。マヤ遺跡の歴史や文化が外国人の興味を引く対象であることを窺い知ることができる。

表 2.8 コパン遺跡での発地別観光客数（年間）

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
ホンジュラス	71,935	71,978	79,232	75,272	－	70,013	64,461	41,757	52,231
グアテマラ	9,304	10,421	11,487	10,773	－	7,405	7,007	5,060	3,711
エルサルバドル	5,243	6,623	8,422	8,884	－	10,432	8,205	4,719	4,435
他の中米諸国	1,167	1,207	1,644	1,109	－	1,380	1,340	1,067	821
南米諸国	2,539	2,871	3,316	3,437	－	4,175	4,300	3,056	3,035
北アメリカ諸国	16,354	17,522	18,269	20,209	－	24,280	25,619	19,685	17,354
ヨーロッパ諸国	26,283	30,884	33,495	28,037	－	29,584	31,150	22,380	20,564
他の世界諸国	2,715	2,539	3,765	4,751	－	3,223	3,953	2,523	2,622
合計	135,540	144,045	159,630	152,472	171,591	150,492	146,035	100,247	104,773

出典：Instituto Hondureño de Antropología e Historia

註）2006年は合計のみ

表 2.9 コパン・ルイナス及び国内主要都市でのホテル稼働率(2010年) (%)

	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計
コパン・ルイナス	38	30	36	40	36
テグシガルパ	47	56	42	61	52
サン・ペドロ・スーラ	53	54	45	47	50
ラ・セイバ	45	55	44	42	47

出展：Compendio Estadístico Ocupación Hotelera 2010 (CANATURH)

(2) 西部地域の観光現況

地域内の拠点別に整理を行うと以下のようになる。

【コパン・ルイナス】

- コパン遺跡の見学のための立ち寄り、宿泊が主な利用である。市街地内には、ホテル 35 軒(約 400 室、約 1,000 ベッド)、レストラン 25 軒、ツアーオペレーター 7 軒、ガイド 40 人などの観光関連のサービスがある。観光案内は、観光協会が行っている。
- テグシガルパにおけるツアーオペレーターの聞き取りでは、当地のホテルについては量・質ともに充足しているが、全般的に道路の改善やゴミや街の美観改善が必要。また、コパン・ルイナスの観光資源では、滞在は 1~2 泊がせいぜいで、それ以上の宿泊を伴う商品はなかなか作りにくいとの意見があった。なお、同所の魅力としては、温泉、乗馬、小規模なラフティング、バードパーク、コーヒー及びコーヒー園、バタフライが思いだされ、特にコーヒー・ツアーは魅力的な商品との意見もあった。
- ヨーロッパ及び米国人観光客に関しては、グアテマラ経由の来訪が圧倒的に多い。グアテマラ・シティを起点とし、同国のティカル、キリグアにコパンを加えたマヤ遺跡ツアーが一般化している。同地からの観光客に関する具体的なデータは乏しいが、地元ガイドなどへの聞き取りでは、同地からの観光客は低調な日で 30 人、好調な日で 100 人、ピークシーズンで 250 人/日(聖週間、イースター期間など)程の観光客が訪れるようである。また、観光客の属性としてはシニア層が多い。
- 観光客の滞留する中心市街地については、市や観光協会の意見では、観光交通と住民交通の制御、街並み景観の改善などの課題がある。
- 交通手段については、国内の主要都市を結ぶバス路線(ほとんどは交通の拠点であるサン・ペドロ・スーラで乗り換え)、さらには、2012年2月から、テグシガルパとコパン・ルイナス近傍のグアテマラ側小規模空港間を結ぶ航空便が週単位で運行されている。
- 工芸品・土産物では、宝飾品、マヤ遺跡のレプリカ石彫、陶器(皿・カップなど)、トウモロコシ人形、Tシャツなどがあり、市内の様々な土産店にて販売されている。また、観光協会では、必要に応じてベーカーリー講習なども行っている。
- 当地周辺は、様々な観光資源を活かした各種の日帰りツアーが開発され、観光客に提供されている。その一例を示すと、以下の通りである。

乗馬ツアー(20USD)、溪流・滝へのツアー(25USD)、鍾乳洞ツアー(40USD)、陶器工房見学ツアー(25USD)、温泉ツアー(35USD)、マヤ日の出ハイク(20USD)、サンセット・ハイク(20USD)、キャノピー・ツアー(45USD)、コーヒー・ツアー(70USD)、自転車ツアー(20USD)

【サンタ・ロサ・デ・コパン】

- コロニアル・タウンとしての街並みが市の観光の魅力である。ただし、観光拠点というよりは、コパン県の県都として行政都市の性格が強い。市街地に 19 軒あるホテルは、出張利用により潤うといった状況になっている。
- 周辺には、セラケ山岳国立公園などがあり、レンカ民族の固有の伝統・文化観光の拠点になっている。観光客数に関する統計資料はないが、現地での聞き取りによれば、観光客よりは商用客が多いようである。

【グラシアス】

- サンタ・ロサ・デ・コパン同様に、コロニアル・タウンとしての街並みが魅力的な土地であり、田舎町としての雰囲気にも富んでいる。観光、国内客やバックパッカーの立ち寄り利用が主体である。市街地には 15 軒のホテルがある。
- レンカ民族の伝統・文化を訪ねるレンカ・ルート周遊の基地でもある。

2.2.2 主な観光資源

本地域において最も特異な資源は、国内でも西部地域のみ分布するマヤ遺跡である。また、山地帯は豊かな自然環境が残されており、3 つの国立公園がある。さらに、コーヒーなどの地場産業も観光資源として活かされている。これらの内容を整理すると、以下の表ようになる。

表 2.9 西部地域における主な観光資源

資源	内容
【自然資源】	・ 国立公園：セラケ山岳国立公園、セロ・アスール・コパン国立公園、モンテクリスト・エル・トリフィニオ国立公園
【歴史人文資源】	・ マヤ遺跡：コパン遺跡、エル・プエンテ遺跡、リオ・アマリジョ遺跡 ・ コロニアル・タウンの街並景観：サンタ・ロサ・デ・コパン、グラシアス、コパン・ルイナス ・ ヘリテージ：マヤ民族、レンカ民族 ・ 特異な建造物：コパン・ルイナス砦
【産業観光資源】	・ 葉巻工場ツアー、コーヒー・ツアー、牧場ツアー
【文化施設】	・ 博物館：コパン遺跡博物館、エル・プエンテ遺跡ビジターセンター、コパン・ルイナス子供博物館
【祭事】	・ 聖週間の宗教行事（各都市で開催）
【観光施設・ツアー】	・ バードパーク、バタフライガーデン、レジャー型プール、温泉施設、ピクニック場
【工芸品・土産物】	・ 粘土細工、陶器、宝飾品（首飾りなど）、マヤの石彫、テキスタイル、トウモロコシ人形（皮を利用）、染物、木彫など

出展：調査団作成

2.2.3 観光開発の取組

西部地域の観光に関連する各組織では、他国との連携によるルートから市街地整備まで、以下のような様々な取組が構想、検討、実施されている。

表 2.10 西部地域における各機関の観光分野に関する取組

機関名	内容
SETUR	<ul style="list-style-type: none"> ● メキシコ、ベリーズ、グアテマラ、ホンジュラスを結ぶマヤ・ルートを構想。
国家計画・国際協力省 (以下 SEPLAN)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小規模ホテルのサービス向上、アドベンチャー的な観光商品・施設での安全確保、自然・遺跡公園のマネジメント技術、観光商品開発等、大学等と連絡をとり、トレーニングプログラムの展開を志向。
ホンジュラス全国観光協会 (以下 CANATURH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2008年～2013年を期間として、「歴史的な建物・街区」の保全・活性化をねらいとした「アーバン・マネジメント」を実施。西部地域では、グラシアス、サンタ・ロサ・デ・コパンが対象。
コパン・ルイナス周辺市連合会 (以下 MANCORSARIC)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年にコパン遺跡入口に観光情報センターを開業。2012年には資金不足で閉鎖。 ● 現在進行中の観光プロジェクトとして「PROTOUR」を検討中。これは、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドルの国境周辺地域・市による広域観光開発の構想。今後、開発テーマや戦略の会議実施。
コパン・ルイナス市	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年に中央広場周辺の敷石による舗装改修を計画。伝統的な工法でなかったため、景観・雰囲気から観光協会の反対意見が出て中止。 ● 景観的に重要な中心街区の建物の新築・改築については、グアテマラから必要に応じて建築家を招き、コロニアル様式に適合しているかをアドバンス。 ● 空港については、コパン・ルイナス市とサンタ・ロサ・デ・コパン市との綱引きの状況。ただし、コパン・ルイナス近傍のグアテマラ側には小規模な空港があり、CM航空 (CM Airlines) がロアタン～コパン間などを就航。www.cmairlines.com
グラシアス周辺市連合会 (以下 COLOSUCA ²)	<ul style="list-style-type: none"> ● コロニアル、ヘリテージ、エスニックをテーマに、スペイン国際開発協力庁 (以下 AECID) の支援を受けレンカ観光ルートを開発。 ● グラシアス中心街の歴史的な建造物改修 (旧教員養成学校など)。 ● AECID の支援で「コロスカ・サーキット」というプロジェクト (2003～2009年) を実施。ガイド育成と組織強化、地方の魅力を活かしたレストラン開発、サービス改善などを推進。 ● 観光のトレーニングについては、今後ともガイド育成、レストランでのスキルや伝統食などの訓練を検討。
観光・工芸技術開発センター (以下 CITEAT)	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶器、宝石 (装飾品)、ストーンワーク、染物などの工芸品改善トレーニングを実施。
AECID	<ul style="list-style-type: none"> ● 米州開発銀行 (以下 IDB) の出資で、コパン遺跡のプロジェクトを立ち上げた。2011年に承認され、1.3百万USDの予算で今後実施。解説・展示技術やトレーニングプログラムが中心。 (プロジェクト名: Centro de Interpretacion Turistica Copan Ruinas)
ホンジュラス・総合開発に関わるキリスト教協会、コパン・ルイナス支部 (以下 OCDIH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日曜日にコパン・ルイナス中心街の借地で野菜の青空市を実施。 ● 年に2~3回、中心広場で工芸市を開催。品目としては、宝飾品、装飾品、粘土細工、木工、刺繍、バック・スカーフ、キャンドル、動物の骨彫刻等。

出展：調査団作成

² COLOSUCA：マヤ系先住民族の言語で「美しい羽飾りを持つ鳥」の意味。

2.2.4 西部地域における観光開発の課題

各種の面談、現地視察、ワークショップの結果（詳細は付録 A 主要面談者リストを参照）に基づき、西部地域、特に観光の中心となるコパン・ルイナスでの観光開発の課題を示すと以下のようになる。

- ①コパン・ルイナス市街地の観光地としての再整備
- ②コパン遺跡のさらなる観光的な魅力の向上
- ③観光を通じた収入の増大と雇用機会の拡大
- ④滞在を促進するさらなる観光商品・イベントの開発
- ⑤観光関連組織間の連携強化
- ⑥住民の環境・美観意識の向上と啓発

表 2.11 ワークショップにて指摘されたコパン・ルイナス観光の強み・弱み

強み	弱み
国際的なマヤ遺跡の存在 ホスピタリティ（もてなしの心、人柄の良さ） 安全性 観光施設の充実（宿泊、レストラン）	インフラストラクチャーの脆弱さ アクセスの悪さ（道路舗装状況） 街並みの乱雑さ 組織間連携の希薄さ 公衆道徳の希薄さ（ゴミ投棄など） 観光インフラの無さ（公衆トイレなど）

出展：調査団作成

2.3 観光関連組織の現状

国レベルでの主な観光関連組織の現況は以下の表のようになる。面談等の調査結果によれば、これらの内、SETUR、CANATURH、環境省、国家職業訓練庁（以下 INFOP）とは、エコツーリズム推進や観光関連の職業訓練などで関係を持ち、協働作業を進めている。しかし、SETUR と前述以外の省庁、例えば国家歴史人類学研究所（以下 IHAH）等とは、具体的な連携はあまり進められていないようである。

表 2.12 観光関連組織の現況（国レベル）

組織名	役割・取組
SETUR	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光に関する国レベルでの政策づくりの主体。 ● 国家レベルでの観光戦略の決定やプロモーションの実施 ● 戦略に基づくプロジェクトの実施 ● 国レベルでの統計資料の作成と発行 ● ガイドなどのトレーニング ● 環境省との国立公園利用（エコツーリズムなど）の連携 ● INFOP と共同による職業トレーニングの実施・・・等 ● 大臣以下、マーケティング、国際調整、計画及び観光商品開発、会計・総務、人事、プロジェクト実施の各部署が存在 ● 2011 年度予算合計：LP295,905,275

CANATUR	<ul style="list-style-type: none"> ● SETUR から委託による観光統計のとりまとめ ● SETUR のプロジェクトへの支援、協働実施 ● 観光セクターの会員への情報サービス ● INFOP と協同による職業トレーニングの実施 ● 国レベルでのマーケティングの支援・・・等
SEPLAN	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の包括的な戦略・計画の作成 ● 観光における国際競争力向上への戦略づくり・・・等
IHAH	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史財や遺跡の保全と発掘 ● 遺跡の利用・管理・・・等
環境省	<ul style="list-style-type: none"> ● 国立公園、環境保全に関する国レベルでの政策づくりの主体 ● 国立公園の管理 ● 観光省と協同にてエコツーリズムの振興推進・・・等
ホンジュラス全国市連 合会（以下 AMHON）	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的な街並みの保全などの観光振興支援のプロジェクトの実施 ● 下部組織である各地方の市連合会を通じた観光振興プロジェクトの実施・・・等
INFOP	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光に関わる正規教育課程による職業訓練の実施 ● 観光省との協同による短期の観光職業訓練の実施・・・等

出展：調査団作成

コパン・レイナスでは、本来は市が観光開発の中心となり推進する必要があるが、市役所内での担当は1名であり、やや力量不足の状態にある。また、コパン遺跡入場料は、全額が IHAH の収入となり、同研究所の管轄する全ての遺跡・博物館の運営及び発掘・研究費として予算配分されるため、地元への還元は無いといった状況もあり、地元と IHAH との課題となっている。コパン・レイナス観光協会は観光案内等でその役割を果たしているものの、主体になる職員は1名であり、その他に2名程度の補助員がいるのみで、やはり市全体の観光を担うにはやや重荷と思われる。このような現況から、官民の関係者全員で同市の観光開発を考える協議会（もしくは円卓会議）の組織化や、官民共通の観光開発方針・計画の策定が有効と思われるが、現在そのような動きもない実情にある。

表 2.13 観光関連組織の現況（市レベル）

組織名	役割・取組
コパン遺跡事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● コパン遺跡の管理 ● 遺跡の調査・研究
コパン・レイナス市	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の観光戦略づくりと計画の作成 ● 観光地としての整備 ● 全体調整
コパン・レイナス観光協会 （商工会議所）	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光案内等の利用者サービス ● 観光統計 ● 会員への情報サービス ● 広報宣伝
CITEAT	<ul style="list-style-type: none"> ● 土産品や手工芸品の開発・改善 ● 観光業の職業訓練の実施
MANCORSARIC	<ul style="list-style-type: none"> ● 市域を超えた広域観光への対応
NGO	<ul style="list-style-type: none"> ● コパン協会：子供博物館の運営、各種教育プログラム等の実施 ● OCDIH：集落開発、集落での手工芸開発支援 ● ホンジュラス総合開発協会（以下 OIDH）：歴史・遺跡資源研究

民間協会	<ul style="list-style-type: none"> ● ホテル協会：協会員の親睦、情報交換、調整 ● ガイド協会：協会員の親睦、情報交換、調整 ● 語学学校：スペイン語教育
民間企業	<ul style="list-style-type: none"> ● ホテル (35 軒)、レストラン (25 軒)、ツアーオペレーター (7 軒)、土産物店がある。 ● 地域のホテルでは地元の地主層がその経営を行ういくつかの例がある。これらの地主は、農業や牧場経営を主事業としながらも、ホテルの他にも、ツアーオペレーター、カフェ、レストラン、コーヒー農園や牧場ツアー等の観光事業も行い、地域の観光に貢献している。

出展：調査団作成

2.4 他ドナーなどによる支援状況

「ホ」国における観光セクターに対しては、以下に示した各ドナーが様々な支援を実施している。特に AECID は、歴史的な背景もあり多くのプロジェクトへの支援を行っている。

表 2.14 他ドナーの支援状況

機関名	内容
IDB	<ul style="list-style-type: none"> ● 総額 35 百万 USD ローンを SETUR に貸付。主に北部カリブ海岸 (テラ、ラ・セイバなど) での 1) 観光インフラ整備、2) プロモーション、3) 観光商品開発、4) 官民ネットワーク、5) トレーニング (ガイド、エコツーリズム、小規模ホテルマネージメント)、6) プロジェクト・モニタリングを実施。2012 年 6 月に終了。< SETUR、CANATURH >
AECID	<ul style="list-style-type: none"> ● 2008 年～2013 年を期間として、全国の以下の都市を対象に「歴史的な建物・街区」の保全・活性化をねらいとした「アーバン・マネージメント」を実施。啓発活動、インベントリー作成、組織的ネットワーク構築、web 立ち上げなどを内容とする。予算は計 1,265,500USD。< AMHON > <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中央地域：コマヤグア、セドロス、サンタ・ルシア、オホホナ ◇ 西部地域：グラシアス、サンタ・ロサ・デ・コパン ◇ 南部地域：アマパラ、ラ・エスペランサ、ダンリ、フティカルパ、エル・コルプス、サンタ・バルバラ、ラ・セイバ、サン・ペドロ・スーラ、バジェ・デ・アンヘレス、サン・フアンシート ● 2008～2010 年にかけて、チョルテカ、サンタ・ロサ・デ・コパン、バイア諸島、ラ・セイバの 4 か所にて、小規模観光業者への運営経営指導、機器提供、カスタマーサービス指導、訓練 (ウェイター・料理人・客室クリーニング) 支援事業を実施。< CANATURH > ● 地方都市のホテルと観光訓練校とを組み合わせたプロジェクトを 2009 年に 5 年計画 (総額 2 百万 USD) にて開始。サンタ・ロサ・デ・コパン市のエリアで 3 か所の候補地を選んだ。現在プロジェクト期間中だが、休止状態。< サンタ・ロサ・デ・コパン地域戦略開発局 (以下 ADELSAR) > ● IDB の出資で、コパン・ルイナス遺跡のプロジェクトを立ち上

	<p>げ。2011年に承認され、1.3百万USDの予算で実施予定。内容的には、来訪者へのサービスの向上（印刷物、展示改善など）、訓練（ガイドトレーニングなど）、ビジターセンター改善（駐車場、歩道、サイン改善など）〈コパン遺跡事務所〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロニアル、ヘリテージ、エスニックをテーマとした「レンカ・ルート（観光ルート）」の開発支援。〈COLOSUCA〉 ● 安全な水の確保、医療チームの集落巡回サービス〈COLOSUCA〉 ● 2003～2009年にかけて「コロスカ・サーキット」というプロジェクトを実施。ガイド育成と組織強化、地域の魅力を活かしたレストラン開発、サービス改善などを推進。〈COLOSUCA〉 ● AECIDの資金協力により、MANCORSARICが窓口となってコパン・ルイナス観光協会に資金を提供。2011年にコパン遺跡入口に観光情報センターを開業。しかし、2012年には資金支援がなくなり閉鎖。このセンターでは、各種パンフレット・マップ類の配布、web整備、コーヒーや牧場ツアーの開発などを行う予定であった。〈MANCORSARIC、コパン・ルイナス観光協会〉
<p>スイス開発協力庁（以下、SDC）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部カリブ海岸での衛生プロジェクトが2011年に終了した（GAMBIO）。〈SETUR〉 ● 観光セクターへ直接ではないが、ラ・パスなどの3コミュニティの開発支援を実施中。具体的には同庁からの資金（872千USD）を地元の事情に則してトレーニング、事業支援資金として活用。〈AMHON〉
<p>デンマーク国際開発庁（以下 DANIDA）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境、ゴミ、下水などの市を対象としたトレーニングプログラムを実施。全国にて広く実施するものでコパン・ルイナスも対象地に入っている（2007年～2012年6月）。この環境マネジメント・プログラムでは、プログラム終了後に修了証書を配布。〈AMHON〉 ● 2011年～2013年の期間で、マヤ先住民族へのマイクロ・クレジット活動を実施。2012年はすでに10件程、金額では438千LPを貸し出し。〈OCDIH コパン・ルイナス支部〉
<p>アメリカ合衆国国際開発庁（以下 USAID）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2012年2月に調印予定の北部海岸沿いでの国立（自然）公園のマネジメント・プロジェクト「ProParque」を予定。計画は5ヶ年プロジェクトであるが、今回は18ヶ月のみの予算獲得の予定。内容的には、プロモーション、レストランなどのサービス改善、ガイド育成、ハンドブック作成、啓発活動、食品衛生などを取り組む。〈CANATURH〉 ● 下水の終末処理場を同庁の支援のより改善。〈コパン・ルイナス市〉
<p>オランダ国際協力協会（以下 SNV）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 工芸品・土産品の開発支援を行い、2010年に終了。〈コパン・ルイナス観光協会〉 ● トウモロコシ人形の改善、染物開発、陶器改善、Tシャツ開発などを3千USDの予算でデザイン支援。2010年に終了。〈CITEAT〉

出展：調査団作成

<>：「ホ」国側受け皿機関

第3章 西部地域において今後求められる観光開発の方向

先の1・2章にて整理した現況調査結果を踏まえ、西部地域において観光開発に求められる基本的な方向を示すと以下ようになる。

【コパン・ルイナスの観光的な魅力と機能の強化】

- マヤ遺跡を含むコパン・ルイナスは、「ホ」国を代表する観光資源である。2005年にSETUR及びIHTにより策定された「持続的な観光開発戦略」でもバイア諸島、カリブ海沿岸とともに、国の優先の観光開発ゾーンとして位置づけられている。
- 特に当該地は、他の3ゾーンのようなビーチリゾートと異なり、3優先開発ゾーンでは唯一の歴史・文化遺産である。それだけに、この特色を活かした観光開発は、国全体の観光の多様性や魅力の向上を左右する要素とも考えることが出来る。
- このため、国内外から観光客を引きつけるため、市街地の整備（街並み、インフラ、交通）、新たな観光商品の開発、サービスの向上などによる当地の魅力の向上、さらには訪れた観光客を他の観光地に送り出し、観光の恩恵を他地域に分配する機能の強化が求められている。
-

＜参考：「持続的な観光開発戦略(SETUR 2005年)」での優先開発ゾーン＞

- ①バイア諸島：自然環境に配慮した国際的なビーチリゾートを形成する。
- ②マヤ遺跡エリア：遺跡の保護とともに、コパン遺跡を起点としてカリブ海岸・バイア諸島とを結ぶ文化的な観光ルートを形成し、「ホ」国観光の魅力の向上、滞在の延長に資する。
- ③カリブ海沿岸：ビーチリゾートとしての発展とともに、沿岸部の豊かな自然を活かしたエコツーリズム開発を推進し、国際観光エリアを形成する。

【広域観光ルートの形成】

- コパン遺跡からサン・ペドロ・スーラに至る道路沿いには、エル・プエンテ遺跡やリオ・アマリージョ遺跡などがある。また、途中のラ・エントラーダから東に進むとサンタ・ロサ・デ・コパンやグラシアスなどのコロニアル・タウンがある。
- また、永くマヤ遺跡の発掘に貢献している考古学者の中村誠一教授（サイバー大学世界遺産学部教授、早稲田大学及び金沢大学客員教授）の意見によれば、グアテマラやエルサルバドルのマヤ遺跡との連携による観光ルートの形成も指摘されている。実際に、今回の調査では、グアテマラ・シティを起点とし、グアテマラ側のティカル遺跡、キリグア遺跡に加えてコパン遺跡を巡るツアーが、外国人旅行者にとって一般化していることが確認された。
- このように、コパン・ルイナス起点もしくは立寄り・宿泊拠点とした広域観光ルート形成の可能性はいくつかあり、西部地域全体での観光開発の観点からも検討が望まれる。

【地域住民に裨益する観光開発の推進】

- コパン・レイナスにおいては、SEPLANの「国際競争力向上プラン」に基づき、2005年に組織化、2008年に建設、2009年に施設オープンしたCITEAT、さらにはマヤ先住民によるトウモロコシ人形³の製作の取組などがある。
- これらの内、CITEATについては、施設オープンの2009年には工芸訓練として陶器、宝石（宝飾品）、ストーンワーク、染物及び包装技術、観光訓練では調理などのコースが実施されたが、2011年には政治体制の変化などの影響もあり運営資金が枯渇し、休止となった。トウモロコシ人形は、マヤ集落の女性たちにより細々と製作されているものの、販路はコパン・レイナス市街のごく一部の土産店と路上販売に限られている。
- 上記のように、コパン・レイナスでは、工芸品開発や職業訓練を通じて、観光の裨益を地域住民に還元する試みが行われてきたものの、必ずしも順調とは言い難い。このような状況を受け、先の取組を含めて、工芸開発や職業訓練を続行し、さらに住民への裨益の拡大を目指すことが求められている。

【6次産業化への取組の促進】

- コパン・レイナス周辺では、陶器、粘土細工、宝石（宝飾品）、ストーンワーク、染物、テキスタイル、トウモロコシ人形などの工芸品、また、農産物では地域の名産であるコーヒーなどがある。この内、工芸品については、一部はコパン・レイナス市街の土産店にて販売されている。また、コーヒーについては、コーヒー農場での直売、市内土産店での販売、さらにはカフェでの提供が行われている。
- このように、例えばコーヒーでは、生産・加工・販売や飲食提供といった複合的な商品の利用や地産地消といった状況であるものの、フリホーレス⁴やタマーレス⁵といった伝統食、コーヒー以外の農産物、各種チーズ、ヨーグルト、ハーブ等は、まだ複合利用や観光的な顕在化はしておらず、コーヒー以外の生産農家の大部分には、観光開発は裨益し難い状況にある。
- このため、地場の農産物を「生産（第1次産業）＋加工（同2次）＋販売（同3次）」として一体に取り扱う6次産業化を通じ、同農産物の生産農家（第1次産業）への裨益を促進する必要がある。

【観光開発への組織連携・強化】

- ワークショップ等での意見では、観光関連組織のコミュニケーション不足が指摘されている。
- 観光は、地域の総力戦とも言われ、さまざまな関係機関が集結し、ひとつの目標に向かうことが必要である。特に、直接的な観光関係者に留まらず、先に述べたように観光産業による裨益を地域に浸透させることを目指すとすれば、行政機関、NGO団体、農業従事者、工芸品製造者、観光事業者、ガイド、運輸関係者、教育従事者などが集まって話し合いを行う共通のラウンド・テーブル、協議会といった組織形成が求められている。

³ コパン・レイナスでの聞き取りによれば、誰が始めたかは不明。一説には米国平和部隊（ピースコープ）ではとの不確定な情報もある。2009年にはオランダのNGOであるSNVがデザイン改善支援を行った。JICAとの関連は特段無い。

⁴ フリホル豆（インゲン豆）を塩味で煮たスープや、すり潰してペースト状にしたもの。

⁵ ラードを混ぜて練ったトウモロコシ粉の生地、鶏肉などの具を入れ、バナナの皮で包んで茹でたもの。

＜参考：ワークショップでの地域組織に関わる結果と意見＞

- コパン・ルイナス観光には、以下の種々の組織が関わっていることが報告された。
 - ・ 国出先：コパン遺跡事務所（IHAH）
 - ・ 地方行政：コパン・ルイナス市観光担当及び都市整備担当、MANCORSARIC
 - ・ 財団法人、社団法人：コパン・ルイナス観光協会、CITEAT
 - ・ コミュニティ組織：ホンジュラス全国マヤ先住民族評議会（以下 CONIMCHH）コパン・ルイナス市部
 - ・ NGO：コパン協会、子供博物館、OIDH、OCDIH
 - ・ 民間：ホテル協会、ガイド組合、各種レストラン、語学学校（その他、一般的には、土産店、ツアーオペレーターなどもある。）
- 問題点としては、以下の指摘があった。
 - ・ 各組織の連携が希薄である。
 - ・ SETUR、IHT 等の国の行政機関は、地方との関与は少なく、現地でのイニシアティブも弱い。また、プロモーション活動に重点を置いているため、連携促進の支援は期待できない。
 - ・ 共通のテーマを話し合う「ラウンド・テーブル」のような組織がない。中心となるべき市のイニシアティブ及び能力不足、また、下地となる組織や経験がなく作るのが難しい。

【観光産業における職業訓練の促進】

- 本調査において、観光事業者（特にホテル）へ面談した結果によれば、料理人、ウェイター、特に各持ち場（キッチン、ホール）での基本的なマネジメントの出来る人材の不足が指摘されている。
- このような状況を受け、サンタ・ロサ・デ・コパン観光協議会（会長は地元有力ホテルの経営者）では、独自に6ヶ月の訓練プログラムの実施を検討しているところもある。また、コパン・ルイナスでは、2011年にコパン・ルイナス観光協会の主催・要請により INFOP が講師を派遣し、ベーカリー短期講座が3回開催されるなどの動きもあった。
- 観光開発の大きな目的のひとつは、雇用の促進であり、観光業での調理、接客等の現場での基本的な技能訓練を行うプログラムの充実が望まれている。

【観光商品のさらなる開発と実施】

- コパン・ルイナスを中心とする地域の観光商品は、アグロツーリズム（乗馬・牧場体験、コーヒー・ツアーなど）、エコツーリズム（自然探索、探鳥、チョウなど）、ソフト・アドベンチャー（キャノピー、チュービング（自動車チューブによる川下り）、スパ体験、瞑想ツアーなど様々なプログラムが提供されている。
- しかしながら、例えば、コパン・ルイナスの観光事業者の面談（Base Camp）結果のように、満月の夜のコパン遺跡は幻想的で商品価値が高く、宿泊とパッケージでイベントになり得るとの指摘もある。このように、まだ誘客に結び付く観光商品、イベント開発の余地はある。
- 特にコパン・ルイナスは、アメリカ人、ベルギー人、ドイツ人、英国人など、ここが好きで住み着いた人も多い。これらの人は外国人として、この地の良さを良く認識している。外部の“眼”も積極的に加え、新たな商品を開発することが望まれる。

【マヤ遺跡における展示・解説機能の充実】

- コパン・ルイナスよりラ・エントラダにかけての川沿いには、いくつかのマヤ遺跡が点在している。
- これらの内、ア) コパン遺跡については石像の大規模な博物館はあるものの細かな発掘品の博物館は無い。イ) エル・プエンテ遺跡については、日本の援助（技術協力「ラ・エントラダ考古学プロジェクト」第1期1984-1989年、第2期1990-1994年）にて整備されたビクターセンター（展示含む）があるが老朽化しつつある。ウ) リオ・アマリージョ遺跡については現在発掘中で、2011年に「ホ」国により展示館の建物は完成したものの、内部の展示は未整備の状況にある。
- これらの施設については、「誰が」、「どのように」充実を図っていくかは現時点では定かでないが、観光的な観点からはその整備・充実が望まれる。

第4章 プロジェクトの方向性

4.1 JICAによる協力可能性の検討

先の第3章にて述べられた方向を踏まえ、具体的な協力案として示すと以下のようなになる。

協力案1：コパン・ルイナス観光街区整備

- コパン・ルイナスの市街地は遺跡見学の基地として、多くの観光客に利用されており、コパン遺跡観光の“顔”でもある。また、国内外からの観光客を引き寄せる拠点であるとともに、その客を各地に分配する役割も担っている。
- 現在、街の中心は不適切な交通整理、雨上がりにおける水はけの悪い街路など、“顔”としての役割を損なう状態も見受けられる。この点は、市役所での面談やワークショップの意見でも指摘されている。
- このようなことから、コパン・ルイナス市街地の内、特に観光利用の多い「中心広場」周辺の街区整備を提案する。

【想定される内容】

- ◆美化啓発活動、交通システム計画・実施（交通規制・制御プラン、プロムナード、新駐車場計画、場合によっては市街地入口に橋改善など）、街並み整備計画・実施（玉石舗装改修、必要な部分の下水道管再敷設、景観規制、観光トイレ新設など）、ゴミ対策、観光案内情報センター新設・運営支援

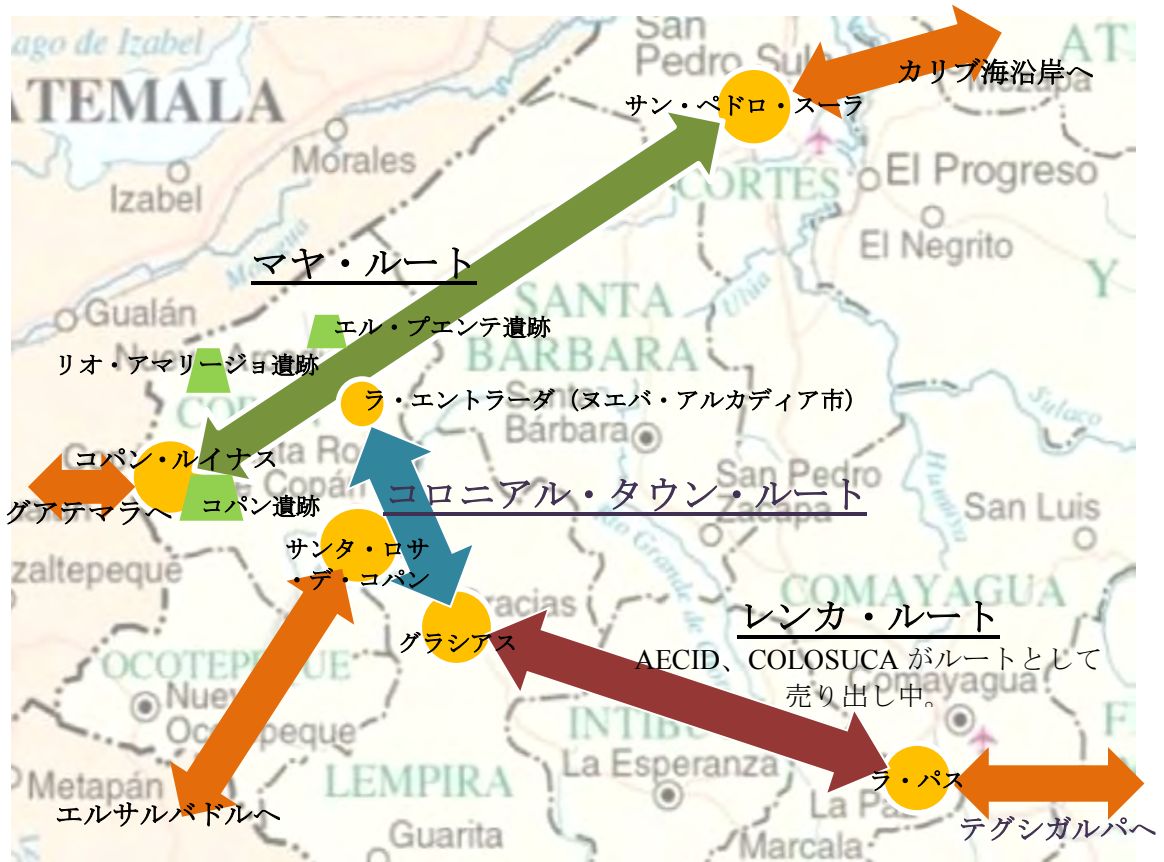
協力案2：ホンジュラス西部地域広域観光ルート形成・利用促進

- コパン・ルイナスからサン・ペドロ・スーラにかけての川沿いにはマヤ遺跡が多く分布する。ラ・エントラーダから南に進むと、サンタ・ロサ・デ・コパンやグラシアスといったコロニアル・タウンが連続する。さらにはグラシアスからラ・パスにかけては、AECIDなどが手掛ける「レンカ・ルート」が存在する。
- このように、西部地域は特色ある観光ルートを形成する素地、資源性を有している。以上のことから、上記の各特性を活かし、既存の「レンカ・ルート」と連携しながら「マヤ・ルート」、「コロニアル・タウン・ルート」といった観光ルート形成と利用促進の支援を検討する（「図4.1」参照）。また、中村誠一教授が指摘するように、グアテマラ、エルサルバドルとのマヤ遺跡を結んだ国際観光ルートの可能性もある。

【想定される内容】

- ◆広域観光協議会の結成・運営、協議会による計画立案、ルートのプロモーション・宣伝活動、利用促進媒体の作成（パンフレット、地図など）、沿道のサイン・計画（共通ロゴ等含む）、巡る工夫の発案・実施（共通クーポン、スタンプ帳発行など）、観光商品・イベント開発

図 4.1 西部地域広域観光ルート概念



協力案 3：地場産業振興センターの開発

- コパン・ルイナスでは、先述のとおり「ホ」国による工芸や観光技能訓練施設である CITEAT が資金不足により休止に追い込まれる事態も発生した。
- しかしながら、観光の裨益を広く地域に還元するためには、工芸（土産品）の制作とその販売は極めて有効な手段である。
- 本地域には、既に CITEAT としての施設や運営経験があることから、この取組の建て直し、建て直し後の運営維持が望まれる。

【想定される内容】

- ◆地場産業振興協議会のような組織形成、協議会による活動計画策定・優先事業の選定、具体的な産品開発・訓練、マーケティング、販路開発・販売

協力案 4：観光産業における職業訓練の促進

- 西部地域にとって、観光は重要な産業であり、また重要な雇用の場でもある。
- このような状況も受け、先の CITEAT では、調理訓練コースを模索し、調理場もすでに整備された。しかしながら、講師の手当てや資金的問題で頓挫した経緯がある。
- また、ホテル現場ではスキルを持つ人手がなかなか集まらない状況から、サンタ・ロサ・デ・コパンでは、ホテル自らが訓練を行おうとする動きもある。このように労働力の需要と供給との差が生じている。
- そこで、CITEAT の既存施設を利用するなどして、半年程度の基礎的な訓練を施す講座設置を検討する。なお、現在のところ、聞かれる訓練要望は、料理、ウェイター、簡単な英会話（受け答え）、基礎的なマネージメントスキルである。

【想定される内容】

- ◆受け皿となる組織形成、需要調査、講座内容・スケジュールの検討、収支等の実施計画策定、講師の調達、講座の実施

協力案 5：コパン・ルイナスにおける観光促進のための各種ソフトウェアの強化

- 「ホ」国にとっても観光の核であるコパン・ルイナスでは、地元のツアーオペレーターなどが中心となり、先述のとおり、様々な観光商品が提案・実施されている。
- しかしながら、ワーク・ショップでも指摘があったように、組織間のコミュニケーションは不足、イベント育成の余地などがあり、さらなる観光客の獲得を目指して、各種ソフトウェア（組織間の連携促進、マーケティング・プロモーション等）の強化が望まれている。
- このような状況を踏まえ、以下のような内容の取組を提案する。

【想定される内容】

- ◆組織連携・強化（観光振興協議会のような組織の立ち上げ）、計画立案、優先プロジェクト選定・実施（マーケティング・プロモーション）、観光情報センター強化

協力案 6：マヤ遺跡における展示・解説機能の強化

- 先にも述べたとおり、コパン遺跡、エル・プエンテ遺跡、リオ・アマリージョ遺跡のそれぞれについて、併設する展示施設への支援の需要がある。
- マヤ遺跡は、当地域において最も重要な観光資源であり、また「ホ」国にとって「持続的な観光開発戦略（SETUR 2005 年）」にて最優先の開発地域と位置づけられている。このようなことから、上記遺跡の観光利用促進を目的とした展示等への整備支援を提案する。

【想定される内容】

- ◆コパン遺跡：各種発掘品の展示支援（比較的、小さなものの展示）
- ◆エル・プエンテ遺跡：展示の更新
- ◆リオ・アマリージョ遺跡：新規展示の支援（建物は既にあり）

4.2 協力対象候補案件の素案

4.2.1 単体プロジェクト

先に述べた「協力案」の内、単体でのプロジェクトとして成立し得るものを選定し、協力対象候補案件として示すと以下のようなになる。

コパン・ルイナス観光街区の整備計画策定プロジェクト

【協力の骨子】

- ◆先の「協力案 1」にて示した内容について、計画策定をコパン・ルイナス市及び新規ワーキンググループとともに進める。具体的には、市が中心となり関係者による観光振興協議会（仮称）および協議会内にテーマ毎のワーキンググループ（WG）を組織化し、JICA チームと WG との協働により計画策定、場合によってはパイロットプロジェクトの実施を行う。
- ◆WG は計画策定に加え、計画結果のプロジェクトを種々のドナーへ売り込む、プロジェクト・セールスの役割も担う。

【関係機関】

- ◆SETUR and/or CANATURH、コパン・ルイナス市（主体を想定）、コパン遺跡事務所、コパン・ルイナス観光協会、コパン協会（NGO）、ホテル協会、ガイド協会、ツアーオペレーター代表、工芸家代表など

【想定される事業スキーム】

- ◆開発計画調査型技術協力もしくは技術協力プロジェクト

【留意点】

- ◆市もしくは主体となる受け皿のオーナーシップと力量の見極め

マヤ遺跡における展示・解説機能強化プロジェクト

【協力の骨子】

- ◆遺跡として観光利用の可能な 3 遺跡について、展示・解説の強化を行う。
 - ・コパン遺跡：展示館の新設
 - ・エル・プエンテ遺跡：展示内容の更新
 - ・リオ・アマリージョ遺跡：展示の整備（建物は完成済み）

- ◆事業実施が確定すれば、確実に成果が担保される。

【関係機関】

- ◆IHAH

【想定される事業スキーム】

- ◆文化無償

【留意点】

- ◆各施設における運営維持管理体制の所在

4.2.2 複合もしくは包括的プロジェクト

先の「協力案」の内、目標が明確で、かつ効果が期待される、いくつかの案や要素を組み合わせたプロジェクトを提案する。

コパン・ルイナス観光振興プロジェクト

【協力の骨子】

- ◆同市の観光地としての魅力の向上、誘客の促進、地域経済・雇用への貢献など、観光の持つ様々な効果を出来る限り引き出すための各種支援を複合的に行う。
- ◆プロジェクトの実施体制については、先の「観光街区整備計画」と同様の内容での対応を想定する（主体（市）＋新設協議会＋WG）。
- ◆市の主体性が確保され、協議会の運営が順調に進めば、計画立案、観光に関わる各種ソフトウェア、さらには協働作業の成果を残せる。

【コンポーネント】

- ①先の「協力案1：コパン・ルイナス観光街区の整備計画策定プロジェクト」のほぼ全ての内容
- ②先の「協力案5：コパン・ルイナスにおける観光促進のための各種ソフトウェアの強化」のほぼ全ての内容
- ③先の「協力案3：地場産業振興センターの開発」の内、マーケティング、商品開発、販路拡大部分の実施

【関係機関】

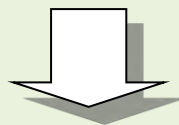
- ◆SETUR and/or CANATURH、コパン・ルイナス市（主体を想定）、コパン遺跡事務所、コパン協会（NGO）、ホテル協会、ガイド協会、ツアーオペレーター代表、工芸家代表、農産品生産者代表、土産品店代表など。

【想定される事業スキーム】

- ◆開発計画調査型技術協力 or 技術協力プロジェクト

【留意点】

- ◆市もしくは主体となる受け皿のオーナーシップと力量の見極め



～以上の内容にさらに要素を加え、“包括的”なプロジェクトとして発展させるなら～

- ◆「道の駅（後述）」、「コパン遺跡展示館新設」を加えれば、地場産業振興の中核形成、さらには遺跡自体の魅力や誘客力の向上に結び付く。
- ◆「コパン遺跡展示館新設」を加える場合には、上記の事業に加えて「文化無償」の採択が求められる。ただし、道の駅のみであれば、その規模によっては「草の根無償」で対応できる可能性もある。また、「見返り資金」利用の可能性もある。

マヤ遺跡観光ルート（回廊）形成・利用促進プロジェクト

【協力の骨子】

- ◆協力案2にて示した「ホンジュラス西部地域広域観光ルート形成・利用促進」の内、観光的な重要性の高いマヤ遺跡ルートについて、ルートの利用促進策の展開とともに、ルート沿いの魅力づけや観光立寄り地開発という観点から遺跡の展示機能の向上を図る。
- ◆特にこのルートは、カリブ海沿岸の観光地（テラヤラ・セイバ）、空港があり観光客の玄関となっているサン・ペドロ・スーラ、そして国内最大のマヤ遺跡の分布するコパン・レイナスを最短で結ぶ極めて重要な観光動線であり、「ホ」国全体の観光を振興する意味からも効果は大きいと考えられる。
- ◆また、展開によっては、グアテマラやエルサルバドルのマヤ遺跡と結ぶ国際観光ルートの重要な一部を形成することも可能である。

【コンポーネント】

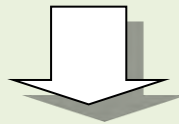
- ①先の「協力案2：ホンジュラス西部地域広域観光ルート形成・利用促進」の内のマヤ・ルート
- ②先の「協力案6：マヤ遺跡における展示・解説機能の強化」

【関係機関】

- ◆SETUR、CANATURH、IHAH、地元関係機関、道路整備管理機関など
- ◆主体はSETURとIHAHの組み合わせになるものと思われる。

【想定される事業スキーム】

- ◆開発計画調査型技術協力 or 技術協力プロジェクト＋文化無償



～以上の内容にさらに要素を加え、“包括的”なプロジェクトとして発展させるなら～

- ◆沿道の魅力づけと地場産業の振興センターとしての役割を担う「道の駅」開発（マーケティング、販路拡大などのソフトウェアも含める）を行えば、観光の地域への裨益効果の拡大に役立つ。

道の駅開発プロジェクト

【協力の骨子】

- ◆協力指針では「地場産業振興センターの開発」、「コパン・レイナスにおける観光促進のための各種ソフトウェア開発」を提案した。これらの主旨をくみ取り、地場産業の振興、観光案内機能の強化、観光の立寄り向上をねらいとして同施設の開発を進める。

【コンポーネント】

- ①先の「協力案3：地場産業振興センターの開発」
- ②先の「協力案5：コパン・レイナスにおける観光促進のための各種ソフトウェア開発」

【関係機関】

- ◆コパン・レイナス市、MANCORSARIC、工芸家代表、農産品生産者代表、コパン遺跡事務所

(設置位置による)、ホテル協会、ガイド協会、ツアーオペレーター代表、道路管理者など

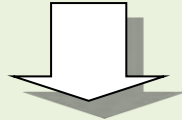
◆プロジェクトの受け皿となる主体は、市もしくは市連合会が考えられる。

【想定される事業スキーム】

◆技術協力プロジェクト+文化/草の根無償もしくは見返り資金（施設整備を行う場合）

【留意点】

◆プロジェクトの受け皿となる主体の選定と見極め（力量、持続性、オーナーシップなど）



～以上の内容にさらに要素を加え、“包括的”なプロジェクトとして発展させるなら～

◆当該「道の駅」にレストランを加え、厨房での調理トレーニングや客席でのウェイター・トレーニングコースを実施すれば、教育訓練（OJT）の場として「協力案 4：観光産業における職業訓練の促進」で述べた内容を含めることが可能となる。

付 録

付録 A 主要面談者リスト及び面談記録

◆主要面談者リスト◆

組織	面談者名
SETUR, IHT	Ms. Syntia Bennett Solomon, Subsecretaria de Estado en el Despacho de Turismo Mr. Roberto Atuan, Coordinator de Proyecto de Turismo Sostenible
SEPLAN	Ms. Cristina Rodríguez, Secretaria Ejecutiva del Sistema Nacional de la Calidad
AMHON	Mr. Danilo Castillo, Director Ejecutivo Mr. Donis A. Suazo, Gestión Ambiental y Recursos Naturales Mr. Santos A. López, Gerente de Descentralización y Desarrollo Municipal
IHAH	Ms. Martha Patricia Cardona, Gerente Ms. Virgilio Paredes Trapero, Sub-gerente regional
ホンジュラス中小ホテル協会（以下 HOPEH）	Ms. Dina Núñez, Hotel Paseo Miramontes
CANATURH	Mr. Epaminondas Marinakys, Presidente Ms. Sue Elen Chávez, Directora Ejecutive
IHAH, Copan Ruians	Mr. Salvador Varela, Representante Regional IHAH Copán Ruinas
コパン・ルイナス市	Mr. Omar Antonio Ríos Ramírez, Director Unidad de Turismo Municipal Mr. Jurio Robert, Sr. Ivan Hernández, Coordinadores Proyectos Municipales
コパン・ルイナス観光協会	Ms. Karla Morales, Directora Ejecutiva
ADELSAR	Mr. Osman Oziel Ordoñez, Gerente
AECID	Ms. Elisa Pineda Canelo, Responsable
Comisión de Turismo de Santa Rosa de Copán（サンタ・ロサ・デ・コパン観光協議会）	Mr. Max Elvir, Coordinador
COLOSUCA	Ms. Indira Alvarez
CITEAT	Mr. José Luis Chinehilla Sorto, Director Ejecutivo
Asociación de Copán（コパン協会）	Mr. Lodin Velasquez, Director
INFOP	Ms. Daisy E. Maradianga, Asistente Cooperación Técnica Internacional
IHAH, El Puente	Mr. José Ortiz, Representante Subregional Parque el Puente Mr. Carlos Carbajal
Municipalidad de El Puente	Mr. Roberto Hernández, Alcalde Municipal
CONIMCHH, Copán Ruinas	Mr. Hipólito Pérez
MANCORSARIC	Mr. José Hernandez
OCDIH	Ms. Colindres, Coordinadora Sectorial

◆面談記録◆

1. Secretaría de Turismo (観光省) 及び Instituto Hondureño de Turismo (ホンジュラス観光研究所)

概 要	
日時: 【第1回】1月10日(火) 11:00 - 12:00 【第2回】2月1日(水) 14:00 - 15:00	
場所: IHT 庁舎	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
川崎、Jenny	Ms. Syntia Bennett Solomon, Subsecretaria de Estado en el Despacho de Turismo Mr. Roberto Atuan, Coordinador de Proyecto de Turismo Sostenible
<ul style="list-style-type: none"> 「ホ」国の観光における魅力は、ビーチ、ダイブ、陽光、マヤ遺跡、コロニアル・タウン、ライフカルチャーである。 「ホ」国における将来的な観光像を描いているが、三大優先開発地域はバイア諸島 (Islas de la Bahía)、北部海岸、それにコパン遺跡である。 「ホ」国の外国人観光客はヨーロッパが主体であるが、2012年は米国へも積極的にプロモーションしたい。 国レベルの売り込みでは、スペイン (マドリード) やドイツ (ベルリン) などの世界的な旅行フェアに参加している。ただし、予算の制約もあり、メキシコやコスタリカの観光の盛んな国のブースようには出来ない。 マヤをテーマに、メキシコから「ホ」国にかけて国際遺跡観光ルートを形成し、観光客を誘致する計画がある。 この計画では、国ごとに中核となる遺跡を選定し(「ホ」国ではコパン遺跡)、その核を中心としていくつかの補完観光資源を選定することとなっている。 職業訓練では、スキルを持つ従事者が少ないように思え、レストラン、客室管理などの技能を教えるプログラムをスタートさせた (INFOP と提携)。 現在の観光的な課題としては、1) 隣国からの道路、2) 人材育成・教育訓練、3) 住民参加・コミュニティベースでの観光開発と考えている。 ドナーとのプロジェクトでは北部海岸でのスイスとの協働により衛生プロジェクトがある。2011年に終了した (GAMBIO)。 現在のプロジェクトで主なものは、IDB のローン 35 百万 USD である。2012年6月に終了するため現在追い込みに入っている。内容は、北部海岸 (テラ、ラ・セイバなど) での観光インフラ整備、INFOP と組んだトレーニング (英語、ガーデン、ローカル・ジュエリー (サンタ・ロサ・デ・コパンとテラで実施、翡翠細工) など) である。コパン・ルイナスで実施予定の料理人とウェイターのトレーニングは未実施と聞いている。 	

2. Secretaría de Planificación y Cooperación Técnica (国家計画・国際協力省)

概 要	
日時: 1月10日(火) 14:30 - 15:30	
場所: 同庁舎	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
川崎、Jenny	Ms. Cristina Rodríguez, Secretaria Ejecutiva del Sistema Nacional de la Calidad 他3名
<p>【主に西部地域の観光面について聞いた。一般的な取組は印刷物にて入手】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部地域の課題は、1) 観光と他産業の連携強化: 例えば工芸・手芸と観光との連携を進めるような施設 (イノベーションセンターという呼称を使用)、2) サービス水準向上、3) 人材トレーニングと考える。 観光と他産業の連携では、コーヒー農園の観光的な活用なども課題である。 サービス水準については、中小規模ホテルのサービス向上、アドベンチャー的な観光商品・ 	

施設での安全確保、自然・遺跡公園のマネジメント技術など、多岐にわたる。

- これらの課題に対応するため、大学と連絡をとり、トレーニングプログラムの展開を考えている。

3. Destinos de Éxito (ツアーオペレーター)

概要	
日時: 1月10日(火) 16:00 - 17:00	
場所: 同社事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎、Jenny	MR. Roberto Bandes, Director general
<ul style="list-style-type: none"> 国内客の他、外国客では米国、カナダ、スペイン、フランスが多い。 例えば、スペイン客では、メキシコのカンクンに1週間、バイア諸島に1週間というプログラムが代表的である。 また、カナダ客は、避寒シーズンのチャーター便で来訪する例が増えている。トロントやモントリオールからの客が多く、北部海岸のビーチリゾートにて12~13泊を過ごすパッケージである。週当たり700~900USDほどの価格となる。 「ホ」国の観光的問題点は、航空路線の貧弱さ、治安の悪さによるイメージ悪化だと思う。 コパン・ルイナスについては、既にグアテマラとの観光流動があるが、治安の問題がある。 コパン・ルイナスについては、ホテルについては量・質ともに充足している。ただ、全般的に道路の改善は必要と考える。また、ゴミや街の美観改善も必要のように思える。 コパン・ルイナスは、観光での宿泊は1・2泊がせいぜいで、それ以上の宿泊を伴うツアー商品はなかなか作りにくい。 なお、同所の魅力としては、温泉、乗馬、小規模なラフティング、バードパーク、コーヒー及びコーヒー農園、蝶が思いだされる。特にコーヒー・ツアーは魅力的な商品に思える。 	

4. Asociación de Municipios de Honduras (ホンジュラス全国市連合会)

概要	
日時: 【第1回】1月11日(水) 9:00 - 10:00 【第2回】2月1日(水) 9:00 - 10:00	
場所: 同庁舎	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎、Jenny	Mr. Danilo Castillo, Director Ejecutivo Mr. Donis A. Suazo, Gestión Ambiental y Recursos Naturales Mr. Santos A. López, Gerente de Descentralización y Desarrollo Municipal
<ul style="list-style-type: none"> 全国298市の連合である。構成市の会費にて運営している。 50名程の職員がいるが、内10名程はプロジェクトでの雇用である。 観光に関連するプロジェクトの概要は、以下のとおりである。 スペインとは、2008年~2013年を期間として、全国の以下の都市を対象に「歴史的な建物・街区」の保全・活性化をねらいとした「アーバン・マネジメント」を行っている。啓発活動、インベントリー作成、組織的ネットワーク構築、web立ち上げなどが実施内容となる。なお、コパン・ルイナスは含まれていない。予算は計1,265,500USD。 <ul style="list-style-type: none"> ▼中央地域: コマヤグア、セドロス、サンタ・ルシア、オホホナ ▼西部地域: グラシアス、サンタ・ロサ・デ・コパン ▼南部地域: アマパラ、ラ・エスペランサ、ダンリ、フティカルパ、エル・コルプス、サンタ・バルバラ、ラ・セイバ、サン・ペドロ・スーラ、バジェ・デ・アンヘレス、サン・フアンシート DANIDAとは、環境、ゴミ、下水などの市を対象としたトレーニングプログラム(講習等)を実施している。全国にて広く実施するものでコパン・ルイナスも対象地に入っている(2007 	

年～2012年6月)。この環境マネージメント・プログラムでは、プログラム終了後に修了証書を受けることが出来る。

- SDC とは、直接観光ではないが、ラ・パスなどの3コミュニティの開発支援を行っている。具体的にはスイスからの資金(872,000USD)を地元の事情に則して使うトレーニング、さらに資金活用である。

5. Instituto Hondureño de Antropología e Historia (国家歴史人類学研究所)

概 要	
日時: 1月11日(水) 10:30 - 12:00	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎、Jenny	Ms. Virgilio Paredes Traperok, Gerente Ms. Martha Patricia Cardona, Sub-gerente regional
<ul style="list-style-type: none"> • 歴史財の保護、保全、プロモーションを実施している。観光分野については、Sustainable Cultural Tourismを進めている。 • 運営資金は政府から25%、75%がコパン遺跡入場料収入により賄われている。 • 現在、考古学者は3名。内2名はメキシコ人である。遺跡発掘などのプロジェクトは大学との契約で進めている。コパンでは中村教授も実施している。 • ガイドについては、SETURが認証し、各協会が運営を行っている。コパン・ルイナスには2つのガイド協会があると思う(地元での聞き取りの結果、現在は1つに統合)。 • Training for Culture Resources Protection というプログラムがあり保全活動、インベントリー作成、啓発活動などの内容である。また、ガイドが参加するヘリテージセミナーでは、先進地訪問を行い、現地での意見交換なども行っている。 • コパン・ルイナスのビジターセンターは80年代からあり、やや老朽化しているように思える。 	

6. Asociación de Pequeños Heteles de Honduras (ホンジュラス中小ホテル協会)

概 要	
日時: 1月11日(水) 13:30 - 14:30	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Ms. Dina Núñez, Hotel Paseo Miramontes
<ul style="list-style-type: none"> • 小規模ながら、それぞれに特色あるホテルづくりを目指している。協会員である Hotel Paseo Miramontes では、エコを標榜し、オーガニック食品の使用、ソーラーパネル、雨水貯留・利用などを行っている。 • 34ホテルが参加しており、コパン・ルイナスでは Hotel Plaza Copán、Hotel Elvir が会員である。 • 「ホ」国の観光では、環境保全といかに観光商品を開発するかが重要と考える。 • 小規模なホテルにとって職業訓練は重要であり、現在国内に2か所(INFOP、ホテル・スクール・マドリード)しかホテル教育機関が無いので充実が望まれる。また、教育内容も極めて初歩的なことしか教えられていない。一方、大学教育の観光教育も基礎知識の習得が主体で実務レベルに達していない。 • 「ホ」国はグアテマラに比べて観光に関する価格が高いように感じる。 • 国内客は大きなマーケットであり、活性化すべき。 • 観光施設などでの外国人観光客と国内客との2重価格はやめるべき。 • また、ガイドに関するトレーナーとガイドそのものの育成は重要である。また、もてなしという点では、例えばタクシー運転手も簡単な英語ぐらいは話せるようになればと思う。 • 今後は、文化と観光との組み合わせを行うべきと思う。 	

7. Cámara Nacional de Turismo de Honduras (ホンジュラス全国観光協会)

概 要	
日時: 【第1回】 1月11日(水) 16:00 - 17:00 【第2回】 2月1日(水) 14:00 - 15:00	
場所: 同事務所 (テグシガルバ)	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Epaminondas Marinakys, Presidente Ms. Sue Elen Chávez, Directora Ejecutiva
<ul style="list-style-type: none"> ホテル、旅行代理店、レストラン、航空会社などが会員となっている。収入は、会費、協賛金、セミナーなどの運営委託費等で賄っている。職員は現在15名である。 目的は、上記の会員への情報提供、親睦などのサービスである。 業務的には、プロモーション(旅行フェアへの参加など)、ホテル・トレーニング、ホスピタリティの向上・啓発などである。また、観光庁から委託を受け、観光統計も行っている。 ドナーとは、UNICEF、AECID、IDB、USAID との中小企業振興や環境でのプロジェクトの経験がある。 AECID とは、2008～2010年にかけて、チョルテカ、サンタ・ロサ・デ・コパン、バイア諸島、ラ・セイバの4か所にて、小観光業者への運営経営指導、機器提供、カスタマーサービス指導、訓練(ウェイター・料理人・客室クリーニング)支援事業があった。 IDB とは、2012年に終了する北部海岸(テラ、ラ・セイバ)での、1) プロモーション、2) 観光商品開発、3) 官民ネットワーク、4) トレーニング(ガイド、エコツーリズム、小規模ホテルマネジメント)、5) プロジェクト・モニタリングをコンポーネントとしたプロジェクトがある。なお予算は約1.2百万USDである。 これからのプロジェクトでは、USAID と2012年2月に調印予定の北部海岸沿いでの国立(自然)公園のマネージメント・プロジェクト「ProParque」がある。計画は5年プロジェクトであるが、今回は18ヶ月のみの予算獲得になりそうである。内容的には、プロモーション、レストランなどのサービス改善、ガイド育成、ハンドブック作成、啓発活動、食品衛生などに取り組むこととなる。 	

8. Land Tour (旅行代理店)

概 要	
日時: 1月12日(木) 10:00 - 11:00	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. José Raul Bonilla, Gerente General
<ul style="list-style-type: none"> 米国、イタリア、中米(グアテマラ、エルサルバドル)などの旅行者を取り扱っている。最近、デンマーク人観光客のコパン・ルイナスと北部海岸リゾートを楽しむ12～14日程のツアーがあり人気がある(この代理店では、特にデンマークとのつながりが強いようで、全国おしなべてデンマーク人は多いわけではない)。 「ホ」国の強みはマヤ遺跡、北部の海岸だと思う。弱みは、やはり安全と低サービス・ホスピタリティだと思う。 価格的には、リゾートでは近隣国に負けていないと思う。例えば当社では、ロアタンでの食事、飲み物すべて込みのリゾートホテルを130USDで提供している。 従業員の教育・訓練は自社で行っている。ホテルの職業訓練も、料理人はある程度の水準にあると思うが、他の職域はやや低いと思う。 国全体では、マーケティング、プロモーション、サービス、ホスピタリティが不足している。 CTO (Central America Tour Operator) という組織があり、多国籍ツアーの協働実施を行っている。例えば、マヤ遺跡ツアーの国際間の運営などを行っている。他国からのツアーでは、グアテマラからの客が多い。 	

9. IHAH, Copán Ruinas (国家歴史人類学研究所コパン遺跡事務所)

概 要	
日時: 1月16日(月) 11:00 - 12:00	
場所: コパン遺跡事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Salvador Varela, Representante Regional Copán Ruinas
<ul style="list-style-type: none"> 来訪客は外国人では、アメリカ人、フランス人が多い。アメリカ人は個人旅行、フランス人はグループツアーが大勢である。次にドイツ人も多い。 出発地はほとんどがグアテマラからである。北部海岸からの客は少ない。 2011年の来訪者数は108,000人、その内、国内客は52,000人であった。 発掘は、ハーバード大、ペンシルベニア大、それに中村教授と行っている。 コパン・ルイナスからサン・ペドロ・スーラにかけては、マヤ遺跡が多く存在し、マヤ・ルート(回廊)として潜在力が大きい。 また、コパン・ルイナスからサンタ・ロサ・デ・コパン、グラシアスにかけてはマヤ+コロニアル・タウン+カテドラルのルートとして、これも魅力的である。 コパン・ルイナスは、上記2ルートのどちらにも関係し、重要である。 しかしコパン・ルイナスは、マヤ文化に即した街作りをすべきであり、市が促進しているコロニアル様式の景観作りは歴史に基づいていない。 遺跡の課題としては、遺跡区域の内の20%が私有地であり調査が出来ず、遺跡破壊の進むことを懸案している。 なお、入場料金の徴収や会計管理、来訪客の情報収集(数、国籍)などはうまくいっており、施設運営面において特に懸案はない。 現在の博物館は石の彫刻物を保存しているが、遺跡からは様々なもの(翡翠の装飾品など)が発掘されており、これらを展示する施設がなく残念である。 トレーニングのプログラムは現在のところ無い。発掘や保全技術者も不足しているが、チケット売り場担当者向けの簡単な語学講座があると助かる。特に簡単な英語会話の教育は重要である。 	

10. Municipalidad de Copán Ruinas (コパン・ルイナス市)

概 要	
日時: 【第1回】1月16日(月) 13:30 - 14:30 【第2回】2月7日(火) 9:00-10:00 【第3回】2月8日(水) 9:00-10:00	
場所: 市役所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Omar Antonio Ríos Ramírez, Director Unidad de Turismo Municipal Mr. Jurio Robert, Mr. Iván Hernández, Coordinadores Proyectos Municipales
<p>【観光担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2010年の観光客の入りは良くなかった。ホンジュラスが外国人に良くないイメージを持たれたせいと思う。2011年は観光客数が元に戻ったように思える。 犯罪、麻薬など、一部のマスコミ報道が観光の出足に影響しているように思う。 街全体では、下水、道路の舗装(街なかの玉石舗装)、ゴミが問題だ。 下水の終末処理場はUSAIDの支援のより改善されたが、道路下の経路(配管)が経年老化しているところもあり、水溜りのできる玉石舗装の改善と同時に改善することは必要に思える。 ゴミ収集も緊急な課題だ。市内には収集車は1台のみである。一方、ホテルは37軒、レストランは45件もあり、収集が追いつかない状況にある。 交通コントロールも緊急な課題である。旧市街地での車の規制が必要となっている。 その他の問題点では、コパン遺跡は市の重要な観光資源だが、IHAHの遺跡入場料収入が市に 	

まわってこないことも問題だ。

- この街では、高校卒業生の1クラス40名の内、10人程は進学し、後の30人は地元に残るが就職は難しい。コーヒー農園の労働者に成るしかない状況もある。観光は、雇用の受け皿として期待は大きい。
- 現在、市の博物館は改修中で資金はIDBから得ている。

【都市計画担当】

- 市街地の整備計画、包括的なプランは無い。
- 2008年までは、観光・市街地整備を担う部署があり、観光ルートや市街地の建物のデザインコードの検討などを行ったが、政変以降は予算がなくなり部署は解散した。
- 現在は、市街地内のコミュニティ（12自治会）の要請に応じて、単発的に道路改良などの市街地整備を行っている。
- 2011年に中央広場周辺の敷石での舗装改修の計画があったが、舗装材・工法が伝統的な方法でなかったため、景観・雰囲気から観光協会の反対意見が出て中止となった（日本で言う、いわゆるインターロッキング・ブロックのような素材）。
- 都市美的な観点から、参考事例としてコマヤグアを視察した。
- 都市整備関係の市職員は6名。ほとんどが、土地建物の税金徴収のための測量を行っている。
- 景観的に重要な中心街区の建物の新築・改築については、グアテマラから必要に応じて建築家を招き、コロニアル風に適合しているかの判断をしてもらっている。また、市内の建築家にも必要に応じて業務委託している。
- 市職員の都市計画などの専門知識は、ごく初歩的な知識を講習で知るのみである。
- 新空港については、コパン・ルイナス市とサンタ・ロサ・デ・コパン市との綱引きの状況にあり、市職員レベルでは良く分からない。中央政府の判断だと思う。
- ただ、コパン・ルイナス近傍のグアテマラ側には小規模な空港があり、CM航空（CM Airlines）がロアタン～コパン間を週単位で就航している。www.cmairlines.com

11. Mc Tour (コパン地元旅行代理店) 及び Cámara de Comercio, Industrias y Turismo de Copán Ruinas (コパン・ルイナス観光協会)

概 要	
日時: 1月17日(火) 9:30 - 11:00	
場所: Welchez グループ (Mc Tour は同グループ) の喫茶室、なお、同グループは地元の有力なファミリーで、ホテル、コーヒー農園などを経営。	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
川崎	Mr. Raul Welchez Ms. Karla Morales, Directora Ejecutiva
<ul style="list-style-type: none">• 全体的な観光動向としては、2009年には落ち込んだが、2011年は持ち直したように思う。• 市の下水管は70年代にセメントパイプにより施工された。このため、劣化が早く、雨の日には陥没する場所もある（市役所にて前日に下水の話が出たので聞いてみた）。• 街の観光のためには、駐車場の確保は急務と思う。また、中央広場周辺の交通コントロールも極めて重要な課題だ。• 街並みの景観については、ある程度のデザインコード（壁の色、高さ、屋根の素材など）があり美観はまあまあと思うが、願わくは中央広場周辺の電線地中化ができると良い。• 旅行者としては、グアテマラからが多い。もちろん北部海岸からの旅行者もいる。ただ、数はグアテマラからが圧倒的に多い。グアテマラからの観光客は具体的なデータは無いが、低調な日で30人/日、好調な日で100人/日、ピークで250人/日（聖週間・イースター期間など）程と思う。• 旅行者は、シニア層が多いように思える。旅行者のうち大半がヨーロッパ、米国からの訪問客である。マヤをテーマにメキシコ、グアテマラの周遊グループもいる。• コパン・ルイナスの観光の魅力は、遺跡、バードパーク、コーヒー・ツアー、乗馬、温泉などがある。因みに、各種ツアーの値段は、乗馬ツアー（20USD）、溪流・滝へのツアー（25USD）、	

鍾乳洞ツアー (40USD)、陶器工房見学ツアー (25USD)、温泉ツアー (35USD)、マヤ日の出ハイク (20USD)、サンセット・ハイク (20USD)、キャノピー・ツアー (木登り、木と木をロープと滑車で移動) (45USD)、コーヒー・ツアー (70USD)、自転車ツアー (20USD) である。

- 安全でリラックスでき、雰囲気があり、清潔、且つ手ごろで良いレストランのあることがこの魅力だと思う。
- 農産物の特色はない。農家の規模が小さく、有機栽培や変わり種の作物に挑戦することは難しい。農産物の最大の特色は、やはりコーヒーだ。
- 伝統的に、自生のハーブを採取して使う。量・種類・技がそろえば産業となるかもしれない。
- 工芸品などの地場産業の育成は雇用促進、収入向上などの観点から極めて重要だ。SNV が工芸品・土産品の開発支援を行ったが、2010年に終了した。
- CITEAT でのトレーニングは現在は休止状態にある。品目は、粘土品 (皿・カップなど)、トウモロコシ人形、新しいデザインの T シャツなどがあつた。
- 観光協会では、INFOP に要請して昨年は 3 回ほどベーカーリー講習を行った。会場は、ホテルやレストランのキッチンを利用している。
- 観光協会は会費により運営しているが、会員の 3 割程が支払っているにすぎない。
- 観光協会では、ホテル稼働率などの統計も役割となっている。

12. Base Camp (コパン・ルイナスの旅行代理店)

概 要	
日時: 1月18日(水) 9:00 - 10:30	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Geert Van Vaeck (ベルギー人)、オーナー
<ul style="list-style-type: none"> • Base Camp は、世界のバックパッカーに交流の場を提供するためにベルギーで作られた組織で、世界に 16 施設がある。 • 「ホ」国の観光は、自分のポジションが分からずにメキシコ、コスタリカなど先進地のコピーをしているように思える。第 2 のカンクンはいらぬ。 • ラ・モスキーティアなどは自然ということでは貴重な戦略資源だが、あまり注目されない。 • コパン周辺でも 4WD に小一時間ゆられて行く高級ホテルなどもある。このような楽しみ方は隠れ家的で観光客にはとても魅力的だと思う。ある種のここの強み、魅力だろう。 • 大まかにみて、コパン観光客の 2 割位はバックパッカーだと思う。彼らは 1 日あたり 25USD 以下で旅行をしている。ただ、1 か所での滞在は最低でも 2 泊するので、総額としてはそれなりに街の経済に貢献している。 • 安価に旅行を楽しむ人のために全国の博物館、史跡を利用できる期間共通券のようなものを用意すると良い。特にバックパッカーは金が無いので、共通券があると助かる。 • 他中米国と比較して「ホ」国は一周遅れの観光事情といつても良い (例えばメキシコ、コスタリカなどと比較して)。このため、他国の観光開発の教訓を学ぶことが重要だ。もっと社会との連携を深める観光 (彼の弁では、ソーシャル・ツーリズム) を発展させるべきである。 • 例えば、ラ・ピンターダ村 (トウモロコシ人形づくりの村) では、まともに食事の出来ない人もいる。これは、観光の恩恵が十分に住民に行き渡らないことの証明のようにも思える。もっとソーシャルツーリズムをと思つている。 • 満月の夜のコパン遺跡は素晴らしい。このようなユニークな機会をなぜ観光資源としないのか不思議だ。 • また、もっと観光と遺跡との関係を深めるべき。 	

13. Café San Rafael (コパン・ルイナスのチーズ工房)

概要	
日時: 1月18日(水) 16:00 - 17:00	
場所: 同ショップ	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Carlos Guerva
<ul style="list-style-type: none"> 大学にて食品工学を学んだ、この知識を活かしたくなりチーズ工房を始めた。 現在は、22種類のチーズを生産・販売している。素材は牛乳のみで、ヤギ乳は扱っていない。その他、ヨーグルトを生産している。 牛乳は全て自前のものを使用し他からは供給を受けていない。50頭程の乳牛を飼育している。 販売は、ほぼコパン市内の直営店のみで販売している。 ホテルに納品もしており、観光とのつながりを深めたい。 皆で、ハーブ、チーズなどの地場素材を活用し、コパン特有の料理開発をしたら面白そうだ。 	

14. Agencia de Desarrollo Estratégico Local de Santa Rosa de Copán (サンタ・ロサ・デ・コパン地域戦略開発局)

概要	
日時: 1月19日(木) 16:00 - 17:00	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Osman Oziel Ordoñez, Gerente
<ul style="list-style-type: none"> 官民協同(行政+商工会議所)の独立組織である。 社会開発を目的に、観光などを取り扱っている。 AECIDの支援でルーラルホテルと観光訓練校とを組み合わせたプロジェクトがある。2009年に開始され、市のエリアで3か所の候補地を選んだ。プロジェクトとしては生きているが、休止状態にある。 また、スペインのコンセプトにより、当地からエスペランサ、ラ・パス等につながるカルチャー、エコ、ヘリテージをテーマとしたレンカ・トレイル(回廊)という構想もある。 COLOSUCAという市の連合組織があり、ここはグラシアス及び周辺で観光振興を担っているので、訪れると良い。 	

15. Agencia Española de Cooperación Internacional para el Desarrollo (スペイン国際開発協力庁)

概要	
日時: 1月19日(木) 17:00 - 18:00	
場所: 市中のカフェ	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Ms. Elisa Pineda Canelo, Responsable
<ul style="list-style-type: none"> サンタ・ロサ・デ・コパンの周辺地域での地域開発に集中している。 2009年より5カ年計画(総額2百万USD)で、観光トレーニング、観光施設・インフラ、マーケティングを組み合わせた観光デスティネーション・プロジェクトを展開していたが、今は休止している。(上記14のホテル、観光訓練プロジェクト) IDBの出資で、コパン・ルイナス遺跡のプロジェクトを立ち上げた。2011年に承認され、予算は1.3百万USD、内容は来訪者へのサービスの向上(印刷物、展示改善など)、訓練(ガイドトレーニングなど)、ビジターセンター改善(駐車場、歩道、サイン改善など)である。 	

16. Comisión de Turismo de Santa Rosa de Copán (サンタ・ロサ・デ・コパン観光協議会)

概要	
日時: 1月20日(金) 10:00 - 11:00	
場所: Hotel Elvir	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. Max Elvir, Coordinador
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当地の観光開発にかかる活動(情報収集・分析、計画の企画・調査、プロモーション等)を無償で実施している。 ・ サンタ・ロサ・デ・コパン及び周辺の観光的な魅力は、サンタ・ロサ・デ・コパンやグラシアスのコロニアル調の街並み、それに周辺のセラケ山岳国立公園(Parque Nacional de Montaña Celaque)の自然・文化だと思う。それにコーヒーを加えてもよい。 ・ サンタ・ロサ・デ・コパンの良いところは、宿泊施設などの観光インフラが整っている点、それに安全な街という点だ。 ・ 国立公園では、ルーラル・ツーリズム、ハイキング、レンカ族のヘリテージなどが楽しめる。特にレンカは独特の文化、生活様式、食、薬草の知恵、手仕事などがあり、観光的に魅力がある。ただし、壊れやすい文化でもあり、開発と保全との両立を考える必要がある。 ・ 観光に関する技能訓練の実施が必要だと思う。特にレストラン(料理人、ウェイターそれに若干のマネジメント能力)はサービスの向上という観点から特に重要である。期間としては6カ月程度で年に2クラスを養成できれば良い。実現に向け、エルサルバドルの職業訓練学校などを視察している。 ・ また、ローカルな素材に一般性と洗練を加えて客に提供することも必要だ。例えば、地場のキノコがあるが、料理に活かされていない。こういう、素材を特色ある料理として提供できるような人材を育てたい。上記の技能訓練内で実施したい。 ・ さらに、手仕事と観光との組み合わせ(工芸品、洒落た土産)を作れる職業人育成を加えても良い。 ・ サンタ・ロサ・デ・コパンは各国ドナーやNGO関係者の宿泊が多く、ホテルとしては助かっている。 	

17. COLOSUCA (グラシアス周辺市連合会)

概要	
日時: 1月20日(金) 12:00 - 13:00	
場所: グラシアスの同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Ms. Indira Alvarez
<ul style="list-style-type: none"> ・ グラシアス周辺の5市の連合である。 ・ 観光的には、コロニアル、ヘリテージ、エスニックなどをテーマとしている。AECIDの支援によるレンカ・ルートはコロニアル様式の街、レンカのヘリテージを結ぶルートを対象としている。 ・ 現在は、グラシアス中心街の歴史的な建造物改修(旧教員養成学校など)を行い、観光資源として活用する予定である。 ・ また、AECIDの支援により、安全な水の確保、医療チームの集落巡回サービスなどの取組も行っている。 ・ 同様にAECIDの支援で「コロスカ・サーキット」というプロジェクト(2003~2009)を行い、ガイド育成と組織強化、ルーラルレストラン、サービス改善などの取組を行った。 ・ 観光のトレーニングについては、今後ともガイド育成、レストランでのスキルや伝統食などの訓練を行っていききたい。 	

- 他のドナーでは、GTZ（現 GIZ）が過去に農村開発を行っていたように思う。

18. Centro de Innovación y Tecnología en Artesanía y Turismo（観光・工芸技術開発センター）

概要	
日時: 【第1回】 1月23日(月) 10:00 - 11:30 【第2回】 2月6日(月) 12:00-13:00	
場所: 同事務所	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. José Luis Chinchilla Sorto, Director Ejecutivo
<ul style="list-style-type: none"> 国家計画・国際協力省による「国際競争力向上プラン」に基づき、各種スキルや技術支援を目的に設立された。全国には、食品、家具・木材、テキスタイル、それに工芸・観光の4訓練センターがある。この内、うまくいっているのはテキスタイルのみと聞いている。 コパン・ルイナスの当センターは、観光従事者の職業訓練、観光の裨益を地域に波及させることを目的として、2005年に組織化（商工会議所、市、工芸関係者等からなるコミッティ）、2008年の施設建設、2009年のオープンとなった。なお2009年には財団法人として正式に法人化した。因みに、資金は世界銀行からで、建物は500千USD、機器は105千USD程の整備費であった。 現在は、建物はCITEATの所有、土地はコパン・ルイナス市より無償貸与を受けている。 当初は、2004年～2008年（フェーズ1：組織化と建設）、2009年以降（フェーズ2：運営）の予定であったが、政治体制の変化によりフェーズ2の続行がならず、やむなく休止状態になった。 トレーニングは、陶器、宝石（装飾品）、ストーンワーク、染物、それに包装技術などの工芸品関係、ホテルでの調理などであった。また、市、商工会議所、小規模ビジネス、コミュニティなどを連携させること、さらには地場の工芸品のデザイン改善、マーケティングも大きな目的であった。 施設的には、事務室、機械室（自家発電機もあり）、工房室（複数）、包装作業室、キッチン、講堂、デザイン室などがある（施設的には、2階建ての立派な建物である。PCをはじめ、設備も充実している。ただし、調理機材（オーブン、作業台）等の訓練機材が一部不足している。 また、零細コーヒー農家の土地購入の支援も行っていた。28件の農家で実施した（Project Access to Land、クレジット及び方策の支援）。 小規模なプロジェクトとしてSNVによるデザイン指導があり、トウモロコシ人形の改善、染物開発、陶器改善、Tシャツ開発などを3千USDの予算で行った。2010年に終了。 	

19. コパン・ルイナスでのワークショップ

概要	
日時: 1月25日(水) 10:00 - 12:00	
場所: El Cuartel（子供博物館も入居する市管理の歴史建造物（砦））	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	<ol style="list-style-type: none"> 1. Karla L. Morales, Directora Ejecutiva, Cámara de Comercio, Industrias y Turismo de Copán Ruinas 2. Liz Valladares, Administradora, Asociación de Copán 3. Londin Velásquez, Director Casa Kinich 4. Omar Antonio Ríos, Director de Unidad de Turismo, Municipalidad de Copán Ruinas, 5. Oscar Santos, Director de Unidad de Planificación Urbana, Municipalidad de Copán Ruinas, 6. Iris Rodríguez, Gerente de Recursos Humanos, Clarion Hotel de Copán Ruinas 7. Argi Diez, Gerente, Hacienda San Lucas

	8. Salvador Varela, Representante Regional, IHAH Copán Ruinas 9. Enrique Carrillo, Director, Guacamaya Spanish School 10. Mauricio a Castañeda, Representante, Hotel Marinas Copán 11. Mike Valladares, Guía, Asociación Guías de Copán
<ul style="list-style-type: none"> ①地域観光のプレーヤー（ステークホルダー）、②観光資源・アトラクション、③観光的な強み。弱みの3議題により実施した。時間は、休憩を含めて約2時間であった。 関係者11名が参加し、活発な意見が交わされた。以下はその概要である。 <p>【①地域観光のプレーヤー（ステークホルダー）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光には、以下の種々の組織が関わっていることが報告された。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国出先：IHAH コパン・ルイナス遺跡事務所 ・ 地方行政：市観光担当、市都市整備担当、MANCORSARIC ・ 財団法人、社団法人：CANATURH コパン・ルイナス事務所、CITEAT ・ コミュニティ組織：CONIMCHH コパン・ルイナス支部 ・ NGO：コパン協会、子供博物館、OIDH、OCDIH ・ 民間：ホテル協会、ガイド組合、各種レストラン、語学学校 ● 問題点としては、以下の指摘があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国等からの連携促進の支援が期待できないこと。 ・ 各組織の連携が希薄なこと。 ・ 共通のテーマを話し合う「ラウンド・テーブル」のような組織がないこと、また作るのが難しいこと。 <p>【②観光資源・アトラクション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以下のような観光資源・アトラクションが地域にあることが報告された。マヤ遺跡を筆頭に、多くのアトラクションのあることが認識されている。 ・ マヤ遺跡、マヤ文化、ヘリテージ、コーヒー及びコーヒー・ツアー、コロニアル様式の街並み、バードパーク、自然、イベント、乗馬、温泉 ● 何といてもマヤ遺跡が最大の資源であることは共通認識として報告された。 ● 伝統的な生活様式（ヘリテージ）、料理、工芸・工芸家、会議誘致の強化の必要性が報告された。 <p>【③観光的な強み。弱み】</p> <p>強みとしては、次のことが挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的なマヤ遺跡、ホスピタリティ（もてなし、人柄の良さ）、安全、観光施設の充実（宿泊、レストラン） <p>弱点としては、次のことが挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフラストラクチャーの脆弱さ、アクセス性の悪さ、街並みの乱雑さ、組織間連携の希薄さ、公衆道徳の希薄さ（ゴミ投棄など）、観光インフラの無さ（公衆トイレなど） 	

20. Hedman Alas（都市間バス会社）

概 要	
日時： 1月26日（木）9:00 - 10:00	
場所： 同営業所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Maricid（コパン・ルイナス営業所責任者）
<ul style="list-style-type: none"> 1952年に創設されたバス会社である。サン・ペドロ・スーラを拠点に全国に路線を持つ。 コパン・ルイナスからは、以下の都市（国際バス含む）に行くことができる。サン・ペドロ・スーラ、テラ、ラ・セイバ、テグシガルパ、グアテマラ・シティ、アンティグア・グアテマラである。 コパン・ルイナス発は、日2便があり、ハブのサン・ペドロ・スーラで各地へ向け乗り換え可能である。 	

- ・ 観光客の多いのは、ラ・セイバ〜サン・ペドロ・スーラ〜コパン・ルイナスの路線である。6時間、L\$653 の料金となる。水、クッキーなどのサービスのほか、保安・安全性の高いことが売りである。
- ・ グアテマラからの利用客はビジネス客が主体である。
- ・ 運行数については、時期（イースターなど）、週末などで増便の調整をしている。

21. Asociación de Copán（コパン協会／NGO）

概 要	
日時： 1月26日（木）10:00 - 11:00	
場所： 子供博物館	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Mr. Lodin Velásquez : Director
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2002年に教育の向上、歴史財の保全、文化活動の促進などを目的に設立された。 ・ 現在、職員は7名。子供博物館の管理運営も行っている。 ・ 主な資金源は寄付及び博物館の入場料収入、それにコパン遺跡にて販売しているオリジナルグッズ販売益である。 ・ 現在の活動は、子供ツアー（マヤの衣装を作り、着るなど）、鳥（インコ）を見る、触るツアー（昨年は40学校ほどが参加、生き物の多様性と貴重性を知る）、クリスマス会（孤児院での慈善活動）、カルチャーフェアなどを行っている。 ・ 僻地の子供達への移動博物館活動も大きな活動である。 ・ 子供博物館は自由に触れる展示であり、可動部分が多いために補修が必要な時期となっている。 	

22. Instituto Nacional de Formación Profesional（国家職業訓練庁）

概 要	
日時： 2月1日（水）11:00 - 12:00	
場所： 同校事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Ms. Daisy E. Maradianga : Asistente Cooperación Técnica Internacional
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光関係の学科では、工芸科、観光科、それにホテル科がある。 ・ 観光学科では、文化、アグロ、エコ観光などの講座、さらにはガイド、マーケティング、旅行商品、プロモーションなどの講座がある。 ・ ホテル学科では、ホテル管理、受付、調理、ベーカリー、レストラン（ウェイター）などの講座がある。 ・ 例えば、調理では1年間、ウェイターでは6ヶ月コースが用意でき、15~20人の受講者が集めれば実施できる。観光関係では11名の常勤、20人程の外部講師がいる。 ・ コパン・ルイナスでは、CITEATの要請に応じて陶芸コースを実施した。また、2010年には、CANATURH コパン・ルイナス事務所の要請により15~20人程を集めてベーカリー講習をホテルなどを利用して3回程行った。なお、この講習は40~80時間コースであった。 ・ グラシアスでは、2月から11月にかけて地元の施設を利用した手工芸コース（木工、テキスタイル、鉄工、編み物（帽子、ハンモック））の講座を行っている。 	

23. IHAH, El Puente（国家歴史人類学研究所エル・プエンテ事務所）

概 要	
日時： 2月6日（月）9:00 - 10:00	
場所： 同事務所	

出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Mr. José Ortiz : Representante Subregional El Puente Mr. Carlos Carbajal
<ul style="list-style-type: none"> エル・プエンテ遺跡の訪問客は年間5～6千人位である。目標は年間3万人の受入である。 現在、12人の常勤、3人のパートタイマーにて運営している。 最近はアメリカ人が多いように思う。もちろん、幹線道路沿いの入り口に日本国旗、JICAのマークの描かれた看板があるので日本人も来る。 ビジターセンターは1994年にほぼ100%を日本の支援で完成・オープンした。全体としては、84年～89年までは学術的な発掘（フェーズ1）、90年～94年にかけては場内整備（フェーズ2）を行った。 建物完成以来、現状維持を続けている。最近では、屋根と窓からの雨漏りがする。また、展示内容が古くなっており、改修の時期にきている。 その他、敷地全体の保安からフェンス、遺跡サイトでの倉庫整備などが急がれる。それに上水供給の安定のために井戸も掘りたい。 入場料は外国人3USD（全体の1割ほど）、国内客1USD（同9割ほど）である。収入はIHAH本部に収めている。 	

24. Municipalidad de Nueva Arcadia（ヌエバ・アルカディア市）

概 要	
日時： 2月6日（月）10:30 - 11:00	
場所： 同市役所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Mr. Roberto Hernández : Alcalde Municipal
<ul style="list-style-type: none"> 当地は商業、交通の要所としての性格が強く、観光開発は考えていない。エル・プエンテ遺跡も地理的には近いが、境界外である。 余暇施設という点では、レクリエーション公園の構想を持っている。約400エーカーの敷地にプール、運動場、大学キャンパス、森林（松）、それに墓地も配置された公園である。 街については、安全を第一に考えており、ただ今、監視カメラの設置を急いでいる。 さらに下水施設が不完全なこと、学校の拡張と机などの更新も解決したい課題である。 他ドナーなどとのプロジェクトも現在は無い。過去（2006年）にJICAに橋を整備してもらったことが唯一の海外ドナーとのプロジェクトである。 	

25. Consejo Nacional Indígena Maya Chortí de Honduras, Copán Ruinas（ホンジュラス全国マヤ先住民評議会コパン・ルイナス支部）

概 要	
日時： 2月7日（火）10:30 - 11:00	
場所： 同事務省	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
川崎	Mr. Hipolito Pérez
<ul style="list-style-type: none"> 観光に関連した活動は特に無い。 工芸については、近傍の村である1) ラ・ピンターダ村：トウモロコシ人形、2) テグシガルパ・ピタ村、カリサロン村：セラミック、3) コラリート村：ジュエリー加工、テキスタイル、キャンドルづくりを行っている。 トウモロコシ人形については、7年程前に始められたと思うが、誰が始めたかは分からない（米国平和部隊（ピースコープ）が初めてという人もいるが定かでない）。販路は、子供たちによるコパン・ルイナス市街での販売、いくつかの土産店での販売となっ 	

ている。

26. Mancomunidad de los Municipios de Copán Ruinas, Santa Rita, Cabañas y San Jerónimo (コパン・ルイナス周辺市連合会)

概 要	
日時: 2月7日(火) 11:30 - 12:30	
場所: 同事務省	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Mr. José Hernandez
<ul style="list-style-type: none">観光に関するプロジェクトは現在のところ無い。AECIDの資金協力により、当機関が窓口となって地元観光協会に資金を提供して、2011年にコパン遺跡入口に観光情報センターを開業した。しかし、2012年には資金支援がなくなり閉鎖となった。このセンターでは、各種パンフ・マップ類の配布、web整備、コーヒー農園や牧場ツアーの開発などを行う予定であった。現在進行中の観光プロジェクトとしては、「PROTOUR」がある。これは、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル3ヶ国の国境周辺の地域・市が集まり観光開発を進める構想である。開発テーマや戦略は今後話し合うこととなっている。事務所のスタッフは17名、また50人ほどのフィールド職員がいる。特に地域での保健に力を入れており、フィールドでの職員が多くいる。観光を担当している職員はいない。産業関係では、オーガニックコーヒー、肉牛振興、調理用オープン製造への支援を行っている。調理用のオープンについては、アメリカのNGOが途上国の事情に合った薪調理具を提案し、コパン・ルイナスのグループが制作している (Team Stove)。	

27. Organismo Cristiano de Desarrollo Integral de Honduras (ホンジュラス・総合開発に関わるキリスト教協会)

概 要	
日時: 2月8日(水) 10:30 - 11:30	
場所: 同事務省	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
川崎	Ms. Colindres : Coordinador Sectorial
<ul style="list-style-type: none">主には農村部での生計向上に取り組んでおり、観光セクターへの直接のプロジェクトは無い。能力強化などと並んで、現在はマイクロ・クレジットも行っており、海外ドナーとは、DANIDAと組み、2011年~2013年の期間で、マヤ先住民族へのマイクロ・クレジット活動を行っている。2012年はすでに10件程、金額ではLP438,000を貸し出した。能力強化では、畜産、農業(コーヒー、トマト、トウガラシ、玉ねぎ)に関するセミナー、講習を行っている。毎日曜日には、コパン・ルイナス中心街に土地を借り、野菜の青空市を行っている。2011年から始め、毎回10~15件の農家が参加している(農家でグループを作っている)。ほとんどその日に売り切れになり、人気がある。ただし、零細農家ばかりで、野菜の輸送手段のないことが課題である。ピックアップ・トラックなどがあると助かる。また、空き地のためにトイレがなく、家主に貸してもらっている。年に2~3回は、中心広場で工芸市を開いており、工芸も朝市活動に広げていきたい。品目としては、宝飾品、装飾品、クレイ細工、木工、刺繍、バックやスカーフ、キャンドル、動物の骨彫刻がある。	

付録 B 収集資料リスト

番号	資料の名称	形態	種類	発行機関
1	National Sustainable Tourism Strategy2005 (英語版)	印刷物、ファイル	収集資料	観光省
2	Boletín de Estadísticas Turísticas 2005-2009	電子ファイル	収集資料	観光省
3	Viaje por el Universo Artesanal de Honduras	書籍	収集資料	国家歴史人類学研究所
4	Los pech de Honduras: una etnia que vive	書籍	収集資料	国家歴史人類学研究所
5	Yaxkin No.33 Vol. 24	書籍	収集資料	国家歴史人類学研究所
6	Yaxkin No.34 Vol. 25 No.1	書籍	収集資料	国家歴史人類学研究所
7	Yaxkin No. 34 Vol. 25	書籍	収集資料	国家歴史人類学研究所
8	Priorización de Demandas de Las Regiones Según la Visión de País	印刷物	収集資料	国家歴史人類学研究所
9	Visión de País 2010-2038 Plan de Nación 2010-2022	印刷物	収集資料	国家歴史人類学研究所
10	Secretaría Técnica de Planificación y Cooperación Externa SEPLAN, Perfil de la Región de Occidente, Enero 2012	印刷物	収集資料	国家歴史人類学研究所
11	Priorización de Demandas de las regiones Según la Visión País 2010-2011	CD	収集資料	国家歴史人類学研究所
12	Ley de Carrera Administrativa Municipal	印刷物	収集資料	ホンジュラス全国市連合
13	La Voz de Los Municipios	印刷物	収集資料	ホンジュラス全国市連合
14	Estadísticas 2010	印刷物	収集資料	国家職業訓練庁
15	コパン・ルイナス市 (過去の都市計画、観光計画関連資料) (5 ファイル) 1)Catálogos, 2)Imagen Mercado, 3)Trifolios informativos, 4)Turismo y Color, 5)Urbanismo	電子ファイル	収集資料	コパン・ルイナス市

